世界学生出場メンバー決まる

田中団長ら19人

全日本学連は9月12日金沢で理事会を開き、第7回世界学生選手権（男子・52年1月9～16日、ワルシャワほか）に出場する日本選手団～全日本学生代表～の選考を行い、役員3、選手16名を決定。各選手からの最終承諾書が出揃ったあと正式発表する。

選手団は年内二～三回の強化合宿を経て12月26日出発、西ドイツ転戦の計画をたてている。

全日本学連がFISU（国際大学スポーツ連盟）の主催するこの大会へ代表チームを送るのは第1回(昭38)、第6回(昭50)についで3度目。

注目の選手は、各地学連の推せんと、全日本学生選抜東西対抗（9月・金沢）出場選手などを候補として選考され、前回の経験を活かしテクニカルでスピーディなチーム編成となった。

このため、平均身長（FP）では前回より約4cm低い175・9cmだがスピードと巧さを看板の選手が揃っている。

前回出場の時2年生で連続出場かとみられた蒲生（中央、オリンピック代表）、能波（大阪体大）の両選手は「多くの選手に国際経験を積ませ、学生としての見聞を広めさせたい」とする方針などから今回のメンバーには加えられなかった。

役員は、前回監督の田中秀夫氏（中央監督）が団長をつとめるほか監督には前早大監督・三沢澄氏（50年訪韓全日本学生コーチ）、コーチには西ドイツのケルン体育大留学経験をもつ日体大コーチ・一宮昌平氏が渉外役を兼ねて決まった。

全日本学生（男子）の海外遠征は韓国派遣（4回）を含め7度目になる。

今回の参加国は16と予想され、予選リーグの組み分けは10月30日ワルシャワで行われる予定だ。

田中秀夫団長の話 前回あげた2勝を最低の目標として、できれば6～8位入賞を目指したい。

日本のメンバーは、体格では2年前より小型だが、多彩な個人技をチームプレーにまとめあげればじゅうぶん勝算はある。

問題は欧州勢の手の内がまったく判らないことで、事前に策戦をたてようがない。

三沢澄監督の話 欧州勢のパワーと対抗するには、個々のテクニックをスピードプレーに結びつけることと、精神的なプラスアルファ以外にないだろう。

日本の学生の気迫といったものを示してきたい。

また、代表選手たちは、次代の全日本を荷うべき好素質の者が揃っており、この機に、国際経験を積んで、どん欲に欧州勢の技術を身につけてもらいたいと思う。

＜注＞7回目を迎える世界学生選手権は、IHF（国際ハンドボール連盟）の管轄からはなれて行われる大会。

FISUはユニバシアードの主催者。日本などは同大会の正式種目としてハンドボールが加えられることを望んでいるが、ヨーロッパの大学ハンドボール関係者は必しもそうでないと伝えられる。

来年8月ソフィア（ブルガリア）で開かれるユニバシアード夏季大会（9競技）にはハンドボールは入っていない。

全日本学生代表団

▽団長	田中　秀夫	（45才）	全日本学連理事 日本協会理事・中大OB
▽監督	三沢　澄	（33）	早大OB
▽コーチ	一宮　昌平	（30）	日体大OB
▽選手			
・GK	岡部　大	（明治4年	182cm 川和高）
	酒谷　信彦	（金沢工大4年	179 小松工）◎
	小松伊佐夫	（中央3年	180 湯沢高）◎
・FP	関　健三	（中央4年	180 笠間高）◎
	西窪　勝広	（中央4年	177 隼人工）
	坪子　義明	（中央4年	171 中央付高）
	長野　透	（中央3年	176 熊本市商）
	鈴木　健文	（早稲田4年	175 江戸川高）
	泉　喜久男	（早稲田4年	174 修道高）
	洞ケ瀬直幸	（早稲田3年	181 市川高）
	後川　一夫	（日体4年	180 岩国工）
	大西　和男	（日体3年	168 佐野工）
	生駒　靖夫	（京都産大3年	183 生駒高）◎
	北野　勝也	（京都産大3年	166 生駒高）
	千葉　史信	（東北学院4年	180 仙台育英高）
	勝地　文男	（慶応3年	176 慶応高）

◎印は日本協会「ヤング全日本」メンバー

「ハンドボール」51年11月号（第147号）目次

【表紙写真】日本リーグ初優勝を飾った大同特殊鋼。柳川弟の攻撃（9月5日、対三景・東京体育館）

撮影・山田真市

イスラエルが欧州に復帰

IHF総会で決定

IHF（国際ハンドボール連盟）の第16回通常総会は10月3、4日の両日ポルトガルのエストリル市「エストリル・ソル」ホテルで行われ、日本協会・荒川清美氏など41ケ国の代表が出席した。

会議はさきに亡くなった国際審判界の大御所E・ホルレ氏（スイス）の追悼にはじまって23の議事が用意されていたが、最大の焦点となったのは、イスラエルのヨーロッパ地域復帰問題。

これは、イスラエルがかねてから要望しつづけていたもので、2年前のジェスロ総会にもかけられたが否決され、当時は同国のヨーロッパカップ特別参加さえ危くなるほどのムードだった。

このことから、今回もその要求が通るのは、かなり難しいとみられていたが、ヨーロッパのいわゆる西側諸国が支持を示し、採決の結果も、圧倒的多数で、ヨーロッパ復帰が認められた。

荒川氏は、イスラエルの要求はきのうきょうに始まったことではなく、今回は特に事前の根廻しが充分であった、とみているが、それにしても、こうまで簡単にコトが運ぶとは思わなかった。もっとも、採決後になって東ドイツが「イスラエルは地理的にもあくまでアジア所属であるべきだ」との発言を行うなどくすぶりは残っているようだ。

イスラエルは、ヨーロッパ諸国の動議により一九六八年の総会でアジアに移されたもので、一九六九年十一月の第7回世界選手権予選（対東ドイツ）を最後にヨーロッパを離れた。

しかし、その時点から「アジアで活動するのは経済的に負担が大きすぎる」とアピール、ヨーロッパカップ（男女）には、代表を送りつづける特例が認められていた。

その後、アジアにおけるイスラエルの国際的立ち場が微妙となり同国を迎えて試合を行うのは、大規模な警備がいることなどから、2年前の第6回世界女子選手権アジア予選では韓国が入国を拒み、東京での日本との決勝は、観客を一人もいれぬ"密室試合"で行われたほどだった。

これで、イスラエルの「アジアばなれ」の気持ちはいっそう強まり、昨年5月改めてヨーロッパ復帰の提案を行った。

日本協会は、アジア予選のたびに「イスラエル問題」が頭痛のタネとなっていただけに、ホッとした表情を隠さずにいるが、同国男子の実力は交流ごとに強められており、アジアから好敵手を失った"淋しさ"も感じないわけにはいかない。

イスラエルのアジアでの活動は一九七一年十一月のミュンヘンオリンピックアジア予選（東京ほか）から数えると5年足らずだった。

渡辺和美氏、理事に再選

また、今回は役員の改選期（任期4年）にあたっていたが、A・サン・ロマン首席副会長（スペイン）が、現会長P・ヒョークベルグ氏（スウェーデン）の留任を強く要望、満場も支持したことから二理事の勇退があったほかは、現体制の再任がスムースに決まった。

3大陸選出理事のうち、アジア地域は、新設のAHF（アジア連盟）が、現職の渡辺和美氏（日本）をすでにノミネートしており、特に審議もなく同氏に決定した。

渡辺氏は4年前のニュールンベルグ総会で理事となりこれで連続2期の"当選"。

AHFの活動開始や、加盟国増加の一途をたどるアジアだけに、初任期とは比べものにならぬほど渡辺理事の"責任"は重く、再任の背景にAHFの後押しがあったことは、いっそうそのポストの重要性を示すものといえる。

この4年間でIHF筋の同氏への評価も高まっており、活躍を期待したい。同氏は現日本協会顧問

このほか、別掲のように世界選手権（男子）B、Cグループの詳細が決まったほか、明年、第16回IHF審判研修会と第4回コーチシンポジウムの開催が確定（会場は別）。第17回通常総会は明後年アイスランドで開かれることに決まった。

「中国問題」やモスクワオリンピックに関する提案はいっさい行われなかった。

今月末から世界選手権「C」

IHFは、すでに決定している男子世界選手権（第9回）の新システム施行にあたり、Cグループ、Bグループの参加国などを次のように発表した。

今月25日から12月2日までポルトガルで行われるCグループは8ケ国が参加。オランダ、ポルトガル、ベルギー、イギリスが予選1組、スイス、フィンランド、ルクセンブルグ、ファロー諸島が同2組となり、各組上位2国で決勝リーグ、1位から3位までがBグループへ進む。

Bグループは明年2月25日から3月6日までオーストリアで行われ、参加国は12ケ国。予選リーグの組み分けは1組がチェコ、ブルガリア、Cグループ3位、2組がスウェーデン、フランス、オーストリア、3組が東ドイツ、アイスランド、Cグループ1位、4組がスペイン、ノルウェー、Cグループ2位と発表されている。

Bグループの上位6カ国と、モントリオールオリンピックの上位6カ国（ソ連、ルーマニア、ポーランド、西ドイツ、ユーゴ、ハンガリー）、開催国（デンマーク）、それにアジア、アフリカ、アメリカ大陸代表各1ケ国の計16カ国によって、一九七八年（昭53）1月26日から2月5日までデンマークでAグループ（チャンピオンシップ）が行われる。アジア大陸予選の詳細は未定。

女子もA、Bグループに

IHFは、男子につづき女子の世界選手権にもグループ（2ランク）制を布くことを明きらかにした。Bグループは来秋、西ドイツで行われる。

そのあとAグループ（チャンピオンシップ）が、すでに発表されている一九七八年（昭53）11月23日～12月4日にチェコで開かれることになる。日本などヨーロッパ地域外の国は男子と同じ扱いを受けるハズだ。

女子オリンピック代表 両陛下に拝謁

モントリオール・オリンピックで5位に入賞した女子チームの井蕪監督と島田夏枝主将ら12人の選手が10月18日、天皇、皇后両陛下のお茶の会に招かれた。

オリンピック大会入賞者に対する恒例の拝謁で、8競技76人が、公式ブレザーコートで宮中に伺い、「石橋の間」で両陛下にお目にかかったあと、「春秋の間」でのお茶の会に出席した。

選手たちは、オリンピック初参加で入賞したうえ、この日の光栄と幸運がつづき、苦しかった予選や本大会もいまや"楽しい思い出"ハンドボールチームが、このような場で、両陛下にお目にかかるのは初めてのこと。緊張と興奮の一日だった。

なお、この会は当初9月29日に予定されていたが、都合でこの日に延びた。

島田夏枝主将の話 光栄なことでした。両陛下はハンドボールチームには「いちばん辛かったことは？」「外国チームは身体が大きいからたいへんでしょう」などと声をかけられました。

この栄誉に恥じないよう、これからも努力する気持ちを新たにしましたが、いつの日か、後輩たちの手で、ぜひ両陛下に金メダルをお見せして欲しいと思います。

「実連ジュニア（男子）」が韓国へ

全日本実連は、第5回日韓男子社会人交流に「実連ジュニア選抜」を派遣することに決め、このほど役員4、選手12名を発表した。

一行は11月1日大阪国際空港から出発、ソウルなどで4〜5試合を行う予定、帰国は10日。

男子の社会人交流は、50年5月円光ク（韓国）が来日して以来のもの。日本チームが訪韓するのは今回が3度目、これまでの通算成績は日本側の20戦12勝1分7敗である。

○……遠征メンバー……○

▽団長 横地宇吉（日本協会及び全日本実連理事）▽監督 市原則之（湧永薬品監督）▽コーチ 近森克彦（三陽商会）▽総務役員 西村興八（全日本実連理事）▽選手 ・GK福井秀人（湧永薬品）大谷満（神戸製鋼）・FP清崎孝、中本満明（以上大同製鋼）、斉藤幸司（大崎電気、全日本）、新田明（大崎電気）、徳田善雄、関本吉志（以上日新製鋼呉）、津川昭（湧永薬品、全日本）、豊岡織作夫（本田技研鈴鹿）、山本昭二（神戸製鋼）藤枝正道（自衛隊勝田）。

日本リーグ勢出揃う

今年の全日本総合選手権

12月8日から12日まで東京体育館で開かれる第28回全日本総合選手権（女子は9日から）の出場チームの一部が次のように確定した。

今回から、男子24、女子16チームのトーナメント法式が採用される。未定チームのうち、全日本学連推せんの男5、女子3は、11月28日全日本学生選手権（名古屋）終了後に発表。

また、女子の全日本実連推せん3チームのうち、1チームが返上された。補充については未定。組み合わせの抽せんは15日東京。

◇男子 大同特殊鋼（愛知、前年度優勝）湧永薬品（広島）、本田技研鈴鹿（三重）、大崎電気（埼玉）、三景（東京）、大阪イーグルス（大阪）日新製鋼呉（広島）、三陽商会（東京）〜以上日本リーグ〜、トヨタ車体、新日鉄名古屋（ともに愛知）神戸製鋼（兵庫）、日本発条（神奈川）〜以上全日本実連推せん〜、茨城教員、スワロー兵庫、佐賀教員〜以上全日本教職員連推せん〜 海上下総（千葉）〜全日本自衛隊連推せん〜

◇女子 日本ビクター（茨城、前年度優勝）、立石電機（熊本）、ブラザー工業（愛知）、東京重機（東京）、ジャスコ（三重）、日立栃木（栃木）、大崎電気（埼玉）、東北ムネカタ（福島）〜以上日本リーグ〜 大和銀行（大阪）、和歌山県商工信用組合（和歌山）〜以上全日本実連推せん〜

全国中学生は麻生町（茨城）で

日本協会は、来年度事業（全国大会）の準備を進めているが、第6回全国中学生大会は8月17日から19日まで茨城県麻生町に内定、第4回全国高専選手権は8月、秋田県に、第20回全日本教職員選手権は宮崎県に、開催を交渉中である。

なお第20回全日本高校選手権は山口県（山口市）、第33回国体は青森県（七戸町）にそれぞれ確定している。

世界の競技人口283万

IHF（国際ハンドボール連盟）は、このほど今年3月31日現在の競技人口などを発表した。

それによると、チーム数は男子が四〇、八三〇、女子が二〇、一五六と3年前に比べ男子で約一千女子で約七千の増。

競技者は、男子が一、〇四二、八六三、女子が三九一、九四六でユースを加えると総計は、二、八三八、〇五五となる。

競技者が圧倒的に多いのはソ連（約82万）と西ドイツ（約51万）の両国。

荒川理事長に藍綬褒章

日本協会・荒川清美理事長に藍綬褒章が贈られることが10月27日決まった。伝達式は11月22日。

石川協会も受賞

文部省による51年度の体育功労者と社会体育優良団体として石川県ハンドボール協会が選ばれ、10月8日表彰をうけた。

初の「クラブ担当」者会議

日本協会普及指導部は、懸案の「クラブ問題」を検討するため、初の全国（各都道府県協会）クラブ担当者会議を11月3日東京・岸記念体育会館で開く。

13日理事会、14日代議員会

日本協会は11月13日午後2時から全国理事会、14日午前10時から全国代議員会をいずれも東京渋谷の岸記念体育会館で開く。

モントリオール後初の会合だけに注目され、今後の日本協会路線を敷く意味でも興味深い。「高校選抜大会（仮称）」や52年度加盟費、登録料なども審議される。

世界へはばたけ日本のハンドボール

（協賛者御芳名・順不同）

議論呼ぶ トップチーム の国体参加是非

日本リーグの発足によって、改めてクローズアップされはじめたのが「トップチーム（主に実業団）の国体出場問題」—。

この論議は、10年来、いや、女子の7人制統一直後（昭32）からのものといわれ、どんな小さな会合でも、ひとたび、この問題が論じられると、賛否まっ二つ、感情的な発言さえとびかうという厄介なテーマだ。

どうしてそうなるのか、といえばトップチームを持つ都道府県とそうでないところとが、はっきり主張を色分けてしまうからである。

トップチームをかかえる地方にとっては、天皇、皇后杯の得点争いがある以上、最強チームを国体に送り出すことを当然としており県内各チームにもそれなりの説得力がある。

ところが、そうでない地方ではあまりにも実力差があるため、参加することが唯一の意義になってしまい、国体は、あくまでスポーツの祭典、勝利ばかりに目を向けるなということになる。

ことに、ブロック予選で実業団チームのため、国体への道を閉ざされつづけている県に、この意見が強い。

上位戦は実業団の舞台

最近15年、成年男女（注・一昨年までは一般男女）の出場チームを見て、実業団がいちども代表になっていないブロックは、男子の北海道、女子の北海道、四国、中国だけである。

反対に、実業団に代表権の半数以上を占めつづけられているブロックは、女子の東海、九州の独占をはじめとして、男子の四国、中国、北信越、東海などだ。

年度別にみると、男子では一昨年の30チームのうち14チーム（47%、含む自衛隊）、女子は昨年の10チームのうち6チーム（60%）という数字が最高。

女子などは「実業団選抜選手権と改称したほうがいい」と陰口がささやかれるほどになってしまった。

男子にしてもベストエイトの占拠率は、48年の"独占"をはじめ上位戦は実業団の舞台である。

「5大都市大会」は辞退決める

近年、社会体育、市民スポーツという言葉が拡がりはじめて、国体は新しい局面を迎えた。

「県のために」と実業団の実力に一目ゆずっていた地方のなかから、クラブにその座をまわせといった声がおきはじめたのが、最近の特徴である。

そこへ、日本リーグができた。

一気に、この問題が噴き出しそうな気配だ。

折も折、日本協会事業ではないが「5大都市（横浜、名古屋、京都、大阪、神戸）体育大会ハンドボール競技」は来年度から、日本リーグ勢の参加を見合わさせることに決めた。

今夏7月、横浜で開かれた代表者会議で取り決められたものだがこの席上でも、意見の調整には、かなりてまどった、と伝えられる

しかし、この決定は、国体問題にも微妙な影響を与えている。

これまでは、前例がなく、うやむやのうちに終っていた論議が「5大都市大会のように…」という言葉で引っぱれる。現に、いくつかの会議で、この傾向がのぞけた

平行する二つの主張

ここで、もういちど二つの主張を並べてみよう。

トップチームの辞退を求めるのは①実業団を主にトップチームには国体以外にも活躍の場がある②実業団の存在は一般クラブの意欲をそぎ、県内の成人競技人口確保にも影響する③「クラブ対策」として地方自治体が費用を一部負担する国体を利用するのは得策のハズーといったところ。

一方、現状保持論の主要点は①国体は都道府県対抗の総合競技会であり、最強チーム同士の場②地方愛好者にトップレベルの試合を見せる絶好の機会③国体での成績が県内普及や県内スポーツ界での格付けに影響する——など。

それぞれの側が"相手"の主張に充分対抗し得る反論を用意できるところに、この問題の難しさがある。

全国会議（11月）で検討か

日本協会は、最近はこのテーマを正式な議題として採りあげていない。

執行部内で現状維持論が支配的だからともいわれるが、それは日本リーグ発足前までのムード。

長い論争に終止符を打つべきだという声も出はじめており、早ければ、11月の全国理事会（13日）全国代議員会（14日）で話し合われるのではないか、ともいう。

たしかに、いちど公式のテーブルで議論する必要はあろう。

最後に"関係者"の意見を紹介しておこう。彼らの考えも"決断"するには不安定のようだが……。

ある実業団選手「国体が国内のビッグ・タイトルとランクづけされている以上、目標の大会ではありません。でも日本リーグが出来て休む暇がなくなりました。

僕は国体は出なくてもいいと思いますが、日頃お世話になっている"県"への唯一回の恩返しの機会ですから簡単には行かないかナ。」

あるクラブ主宰者「実業団、とりわけ日本リーグ勢は出場辞退して一般社会人の大会にすべきだと思いますが、「強すぎるから出るナ」というのはどうもネエ…。

クラブに道が開ければ開けたで予選から本大会までかなりの日数がかかり、いろんな意味で選手に犠牲を強いることになる。」

沖縄県の直接参加はムリ

日本体協は10月19日東京で開いた国体運営連絡会議で、沖縄体協から要望されている「沖縄チームの国体直接参加」は実現が難しいとした。

これは、沖縄県の本土復帰にともない各競技が、九州ブロックの予選を経なければならず、予選—本大会への諸経費がかかりすぎるため、昭和42年から47年までのようにブロック予選を免除して、いきなり本大会に出場できるよう望んでいたものである。

ハンドボールは、4年前九州ブロックに組みこまれて以来、沖縄県代表が国体出場をはたしたのは昨年の少年男子、成年男子だけ。

大同特殊鋼（男子）立石電機（女子）が優勝

～初の日本ハンドボールリーグ～

観客動員二万六千　湧永、重機最終週でつまづく

第1回日本ハンドボールリーグは国内最上位の実力を誇る男女各8チームによって9月4日から26日までの12日間、全国15都市16会場で男女計56試合を行った。

男子は、本誌既報のとおり天王山とみられた大同特殊鋼（愛知、旧チーム名・大同製鋼）×湧永薬品（広島）が引き分けとなったため両者のそのあとの試合ぶりが焦点となったが、大同が6勝1分で全日程を終えたのに対し、湧永は大崎電気（埼玉）戦を落とし、最終日を前に大同特殊鋼の初優勝が決まった。

女子は、第4週前半まで東京重機（東京）が全勝（4戦）で突走り、劇的な波乱を招くかとみえたが最終の北陸シリーズでつまづき、重機に敗れた以外、手固く試合を進めた立石電機（熊本）に初優勝がころがりこんだ。

男女を通じ唯一のクラブチーム男子・大阪イーグルスは連日の健斗で3勝をマーク、6位となったのは賞讃されよう。

注目の得点王争いは、男子は藤中憲二（大同）が57点のハイスコアをマーク、女子は額賀美恵子（日ビ）が復調を示し26点でトップとなった。

また、報道関係、レフェリー、チーム関係者などの推せん（投票）を参考にしたベストセブンも発表（別掲）された。

全期間を通じての観客動員は延べ二万六千人。好カードの並んだ第2週を17号台風に見舞われたため当初の目標三万人を下廻ったが、まずまずの成果といえる。

男子

大阪イーグルス五分の星

第3週詳報（9月15～19日・清水ほか）

本田技研鈴鹿（三重）25（13—5、12—10）15 日新製鋼呉（広島）

得	【本田】		【日新】	得
0	細野	GK	三田	0
0	柴田	GK	佐野	0
3	田上	FP（審・大橋 久保田）	脇若	0
5	佐藤		大庭	6
3	喜井		徳田	3
6	新実		吹上	2
2	金子		下茂	1
0	柳		村川	2
5	矢野		関本	1
0	豊岡		吉田	0
1	高木		湧中	0
0	川上		松下	0
15（2）		TP		（0）15

三景 19（10—9、9—9）18 大崎電気（東京）（埼玉）

○……後半押され気味の三景は23分山村で17—17としたあと26分中馬、28分川島が巧みな攻撃から勝ちこし点をあげ、28分40秒1点を返されたものの逃げこんだ。

大崎は、前半のハンデを後半早々に取り戻しながら、その直後2本のPTを与えたのが結果的には勝機を逃すことにつながったようで、三景得意の乱撃戦に誘いこまれてしまった。

得	【三景】		【大崎】	得
0	佐藤	GK	福本	0
0	小林	GK	原田	0
3	中馬	FP（審・村上 関川）	斉藤	3
5	村田		大熊	5
5	佐々木		井手	3
2	川島		飯田	1
3	山村		佐藤	1
0	加藤		前渕	0
1	内藤		橋本	0
0	武内		東	4
0	高梨		新田	0
0	飯島		坂口	1
19（3）		PT		（1）18

本田技研鈴鹿 24（15—6、9—4）10 三陽商会（東京）

得	【本田】		【三陽】	得
0	柴田	GK	吉近	0
0	細野	GK	田村	0
8	佐藤	FP（審・稲石 奥村）	田中	3
0	柳		小川	0
4	矢野		竹村	0
4	金子		稲木	2
1	新実		石原	1
3	田上		緒方	0
0	高木		近森	1
4	喜井		梅屋	0
0	川上		鵜沢	3
0	豊岡			
24（1）		PT		（0）10

大同特殊鋼（愛知）31（20—5、11—7）12 呉 日新製鋼

得	【大同】		【日新】	得
0	倉谷	GK	三田	0
0	柳川兄	GK	佐野	0
3	中井	FP（審・浅野 浅田）	徳田	1
3	大原		大庭	3
6	花輪		下茂	3
0	松原		吹上	3
12	藤中		脇若	1
0	北村		松木	0
1	中本		村川	0
3	柳川弟		関本	1
3	野田		湧中	0
0	清崎		吉田	0
31（3）		PT		（1）12

湧永薬品（大阪）22（14—6、8—4）10 大阪イーグルス（大阪）

得	【湧永】		【大阪】	得
0	福井	GK	本田	0
0	今井	GK		
0	木野	FP（審・福井 山本）	早川	1
0	松本		池本	2
5	山本		河原崎	0
0	戸田兄		足羽	0
6	津川		福井稔	5
8	穂積		安達	0
1	高橋		高木	0
1	戸田弟		高橋	2
0	藤本		北居	0
1	森		北岡	0
22（3）		PT		（0）10

（注）大同特殊鋼42—12三陽商会は本誌前号既報

第4週（最終週）　9月21、22、23、25、26日

の5日間茨城県岩井市の日本ビクター体育館（茨城）、熊本市体育館、高岡市民体育館（富山）、金沢美術工芸大学体育館（石川）、石川県体育館で計8試合が行われた。

日新製鋼、惜しい敗退

▽第1日・岩井（観衆五十）

大崎電気 22（13—8、9—13）21 呉 日新製鋼

得	【大崎】		【日新】	得
0	福本	GK	三田	0
0	原田	GK	佐野	0
1	飯田	FP（審・永山 斉藤）	大庭	7
3	東		脇若	3
3	佐藤		徳田	4
6	井手		下茂	6
8	大熊		吹上	0
1	斉藤		関本	1
0	橋本		松木	0
0	前渕		村川	0
0	新田		吉田	0
0	椿原		湧中	0
22（4）		PT		（1）21

○……大崎は残り30秒佐藤のゴールで辛くも勝った。

たいへんな乱打戦。日新は前半せっかく優位に立ちながら、後半10分間に大熊の突進を捌きされず7点を失ったのが痛い。

残り10分17—20から粘りつく攻撃力を持っているだけによけい惜しまれた。

（池田鉄哉）

……☆男子ベストセブン……

▽GK　本田　洋（大阪イーグルス）

▽FP　藤中　憲二
中井　武三
（以上大同特殊鋼）
穂積　豊彦（湧永薬品）
佐藤　要二（本田技研鈴鹿）
大熊　昌己（大崎電気）
村田　幸男（三景）

日本ハンドボールリーグ男子勝敗表

	大同	湧永	本田	大崎	三景	大阪	日新	三陽	勝ち点	勝	分	負	総得点	総失点	得失点差
①大同特殊鋼	………	△21-21	○26-16	○30-19	○30-16	○26-19	○31-12	○42-12	13	6	1	0	206	115	91
②湧永薬品	△21-21	………	○24-16	●18-23	○26-10	○22-10	○33-12	○30-11	11	5	1	1	174	103	71
③本田技研鈴鹿	●16-26	●16-24	………	○26-14	△14-14	○18-13	○25-15	○24-10	9	4	1	2	139	116	23
④大崎電気	●19-30	○23-18	●14-26	………	●18-19	△16-16	○22-21	○22-12	7	3	1	3	134	142	-8
⑤三景	●16-30	●10-26	△14-14	○19-18	………	●18-20	○22-18	○29-13	7	3	1	3	128	139	-11
⑥大阪イーグルス	●19-26	●10-22	●13-18	△16-16	○20-18	………	○21-20	○21-17	7	3	1	3	120	137	-17
⑦日新製鋼呉	●12-31	●12-33	●15-25	●21-22	●18-22	●20-21	………	○18-11	2	1	0	6	116	165	-49
⑧三陽商会	●12-42	●11-30	●10-24	●12-22	●13-29	●17-21	●11-18	………	0	0	0	7	86	186	-100

▽第2日・岩井（観衆五十）

三景 22（14―11、8―7）18 日新製鋼呉

【三景】得：GK 0 佐藤、0 小林／FP 2 佐々木、8 村田、1 加藤、6 中馬、2 内藤、3 川島、0 飯島、0 武内、0 高梨

【日新】得：GK 三田 0／FP 吹上 4、下茂 5、脇若 1、大庭 3、徳田 4、関本 1、松木 0、村川 0、古田 0、湧中 0

（審・永山・斉藤）

22（1）PT（1）18

○……後手にまわっていた日新が後半15分14―14に追いつき緊迫したが、三景は16分村田、19分中馬と両新鋭の巧技でポイント、さらに2点を加えて突き放した。

日新の攻撃は充分Aクラスの力があり課題は守りにつきる。なおこの試合は前日分とともに第2週に組みこまれていたが、17号台風のため、日新が旅行できず、第4週へ延ばされていたもの（池田）

本田、前半の好調保てず

▽第3日・熊本（観衆二千五百）

大同特殊鋼 26（17―8、9―8）16 本田技研鈴鹿

【大同】得：GK 0 柳川兄、0 倉谷／FP 9 藤中、4 柳川弟、3 中井、4 松原、5 花輪、0 大原、0 野田、0 中本、0 清崎、1 北村

【本田】得：GK 柴田 0、細野 0／FP 田上 3、佐藤 5、喜井 0、新実 4、柳 0、矢野 0、金子 4、高木 0、川上 0、豊岡 0

26（1）PT（5）16

○……万年優勝候補の名を返上しようとする本田は、もう1敗もできない。上り調子となったところでの大同戦とあって張り切ったスタート、大同をしのぐ鋭い攻撃で場内をわかせた。

しかし、後半になるとスタミナに優る大同が圧倒的なチーム力をみせつけた。本田は緊張の糸が切れると、反撃の意欲さえ示せず、勝敗の興味をうすれさせた。

これで大同は6勝1分、得失点差91で全日程を終了、湧永の結果（残り試合2）待ちということになった。

▽同・水海道（観衆二百）

日新製鋼呉 18（9―4、9―7）11 三陽商会

【日新】得：GK 0 三田、0 佐野／FP 6 吹上、3 下茂、1 脇若、4 大庭、3 徳田、0 村川、1 関本、0 吉田、0 湧中、0 松木

【三陽】得：GK 吉近 0、田村 0／FP 近森 2、田中 3、小川 2、竹村 0、稲木 2、緒方 1、石原 0、梅屋 0、鵜沢 1

18（3）PT（1）11

○……3連戦の日新は立ちあがり二本のPTを活かし、さらに徳田吹上らで主導権を握った。三陽は前半なかばから調子を取り戻し、後半15分11―13まで追い詰めたが、そのあと決め手がなく日新の逃げこみを許した。

両チームはこれで全日程を終了日新7位、三陽8位が決まった。

福本の好守に湧永自滅

▽第4日・高岡（観衆千七百）

大崎電気 23（11―9、12―9）18 湧永薬品

【大崎】得：GK 0 福本、0 原田／FP 2 飯山、7 大熊、4 斉藤、3 佐藤、3 井手、2 東、2 橋本、0 前渕、0 新山、0 椿原

【湧永】得：GK 福井 0、今井 0／FP 津川 2、穂積 5、山本 2、松本 2、木野 4、高橋 3、戸田兄 0、戸田弟 0、藤本 0、森 0

（審・金原・徳前）

23（2）PT（1）18

○……大同を追う湧永だが、この試合と明日の三景戦で勝利はもちろん、32点の〝貯金(得失点差)〟を上ずみしなければ優勝できない。

5分3―1の好ペース、だがそのあと波にのる大熊の攻撃を受けて10分5―5。それぱかりか20分には6―9と劣勢に立たされてしまった。

後手にまわった湧永は射ち急ぎはじめるが、その動揺を大崎のベテランGK福本が見逃すハズはなかった。往時におとらぬキーピングでシュートを阻み、いっそう相手を焦らせた。

後半5分10―15の湧永は、守りの復調で反撃が期待されたが、大崎FPの好マークにあってピッチが上らず11分12―15まで。

大崎は後半なかばから井手、東らで加点、久々に会心の試合運びをみせて、湧永を降した。

これで大同の初優勝が自動的に決まった。（徳前啓人）

大阪イーグルス（大阪） 20（11―6、9―12）18 三景

【大阪】得：GK 0 本田／FP 3 早川、6 池本、6 福井稔、4 河原崎、1 高橋、0 足羽、0 安達、0 北岡、0 北居、0 橋本

【三景】得：GK 佐藤 0、小林 0／FP 佐々木 5、山村 0、川島 5、村田 4、中馬 2、加藤 2、飯島 0、武内 0、高梨 0

（審・柳沢・加藤）

20（0）PT（0）18

○……大阪がみごとに逆転勝ちをやってのけた。

残り8分16―18。いちおうは5点差をつけられていたのを追いあげたものだが、いぜん三景有利にみえた。しかし25分河原崎で同点のあと27分池本、28分30秒河原崎でみごとに勝利を握ったのである。

三景は前半10分6―1、23分11―6と好調だったが、その優位を守り切れなかった。

動きの速さとパスプレーの応酬で見応えはあったのだが、ラフプレーも目立ち、地方への普及という点ではいささかマイナス面がのぞかれたのは残念。（加藤雅之）

▽第5日(最終日)・金沢美術工芸大学体育館（観衆三百）

大阪イーグルス 16（10―9、6―7）16 大崎電気
引き分け

○……スリリングなフィナーレだった。残り5秒、大崎・飯田のシュートをGK本田の好守で阻んだ大阪は一気に逆襲、ノーマークで

【大崎】		得
GK	福本	0
GK	原田	0
FP	飯田	0
FP	東	1
FP	佐藤	1
FP	井手	5
FP	橋本	0
FP	前渕	3
FP	大熊	5
FP	斉藤	1
FP	新田	0
FP	椿原	0
PT		(1) 16

【大阪】		得
GK	本田	0
FP	高橋	2
FP	池本	3
FP	足羽	0
FP	安達	3
FP	橋木	0
FP	河原崎	2
FP	早川	1
FP	福井	5
FP	北岡	0
FP	北居	0
PT		(1) 16

（審・柳沢・加藤）

放った河原崎のシュートは、ゴールポストの右・左を〃一往復〃して入らず終了の笛が鳴った。

「勝ちこし」をかけた両チーム始めから熱がこもった。後半5分すぎから押し気味の大阪を追って大崎は26分同点(15－15)のあと、28分東で勝ちこし、勝利を握ったかにみえたが、大阪は28分50秒安達でタイとした。両チームの健斗をたたえたい。（越田義昭）

三景、Aクラス落とす

▽同・石川県体育館（観衆一千）

湧永薬品 26（15－7、11－3）10 三景

【三景】		得
GK	佐藤	0
GK	小林	0
FP	佐々木	0
FP	加藤	1
FP	山村	1
FP	川島	1
FP	飯島	0
FP	武内	0
FP	村田	4
FP	市馬	3
FP	高梨	0
PT		(2) 10

【湧永】		得
GK	今井	0
GK	福井	0
FP	津川	7
FP	木野	1
FP	穂積	2
FP	森	0
FP	高橋	2
FP	戸田兄	0
FP	藤本	1
FP	松本	7
FP	山本	4
FP	戸田弟	2
PT		(2) 26

（審・若山・宮川）

○……三景は敗れても12点差以内ならAクラス（4位以内）を確保できるわけだったが、前日の敗戦が尾を引いているのか、いつものテンポが見られず、湧永のゆさぶりを受けるばかりで完敗、リーグの終幕戦にしては味気なさすぎた。

大同・中浜大輔監督の話　湧永と総得失点差で優勝が決まると思っていたのに、湧永が大崎に敗れたのですか――。ちょっと考えられない結末になりました。

それにしてもこんなに苦しんだのは初めてでした。

第1回のこのタイトルだけはどうしても取りたかっただけにうれしい。これで四年連続で全国タイトル独占のメドもつきました（朝日新聞から・9月26日付）

内容的には満足いく

徳永陸繁リーグ運営委員長の話　男女とも最終週に優勝争いが持ちこまれ、内容的には充分に各地の愛好者の期待に応えられたと思う。運営面では、期間中在京のスポーツライターと再三会合をもち各面で課題を指摘されたが、地方協会、チーム関係者の要望、反省も加えて来年はいっそうの充実をはかりたい。

個人得点15傑

①	藤中	（大同）	57点
②	福井稔	（大阪）	36
②	村田	（三景）	36
④	佐藤	（本田）	35
⑤	柳川弟	（大同）	34
⑤	穂積	（湧永）	34
⑤	大熊	（大崎）	34
⑧	花輪	（大同）	31
⑨	大庭	（日新）	30
⑩	中井	（大同）	29
⑩	津川	（湧永）	29
⑫	松本	（湧永）	27
⑫	金子	（本田）	27
⑫	井手	（大崎）	27
⑮	佐々木	（三景）	26

新加盟希望チームで2部大会

リーグ後初の運営委員会が10月17日東京・国立競技場会議室で開かれた（15委員出席）。

注目の第2回リーグ（52年度）は既定方針どおり、男女各8チーム2回総当りで実施することが確認され、全112試合を56試合づつ前・後期に分けての消化も決定した。日程は前期が6月11日から7月31日までの土、日曜と祝日の16日間、後期が9月23日から11月27日までの土、日曜と祝日の24日間とされた。後期のうち、第32回国体期間中(10月2～7日・青森県七戸町)はスケジュールを組まない。

発表の遅れていた今年度の「2部大会」と「入れ替え戦」については、常任委の『全国から新加盟希望チームを募り競技会を行い、その上位2チームと、日本リーグ下位2チームが入れ替え戦を行う』という提案を了承、日本協会全国代議員会（11月14日・東京）の承認をうけたのち、早急に具体化することとなった。

また、第1回リーグの反省として運営委員の職務(分掌)明確、審判団の確立などが打ち出された。

このほか、リーグのシンボルマークの公募が決まり、要項決定のあと報道機関に協力を求めて〃全国発表〃する予定。

なお、この会議で執行部機構の一部手なおしが行われ、それにともなって各部責任者として次の人事を決めた。

▽総務企画部　桑名照雄（日立栃木）▽広報部　委員長(徳永陸繁)兼任▽二部大会委員会　泉正明（日本協会）▽会計部　副委員長（山田稔）兼任▽表彰委員会　井上素行（大崎電気）▽記録審判部　近森克彦（三陽商会）

入れ替え戦は来春以降か

○……空白のままだった〃2部〃にどうにかメドがついた。

基本線は日本リーグ発足の姿勢を反映させて、4加盟団体（全日本学連、全日本実連、全日本教職員連、全日本自衛隊連）と47都道府県協会から加盟希望チームを募りそれらのチームで「2部大会」を実施、上位2者がリーグの下位2者と入れ替え戦を行おうとするものである。

本来は、日本リーグの下部リーグとして固定化した組織造りが行われるべきだが、一気にそこまでは求められず、当分の間は、「入れ替え戦のための大会」になる。仕方あるまい。年内に新加盟希望チームの募集を行い来年2月頃に2部大会とみられる。

ビクター2位、重機は3位

女子

第3週詳報 （9月15～19日・名古屋ほか）

ブラザー工業（愛知）13（8－1、5－3）4 日立栃木（栃木）

得	【ブエ】		【日立】	得
0	山本	GK	桑谷	0
0	浅谷	GK	高橋	0
0	岩井	FP（審・鈴木、沢野）	桜庭	0
3	中川		鈴井	1
3	小森		晴山	0
1	宮平		島田	2
3	国府田		荒木	1
2	佐々木		小根沢	0
0	楠石		田村	0
1	山本		山井	0
0	木下		大岩	0
0	宮本		吉田	0
13（0）		PT		（0）4

○……両チームとも得たるPT0という近来めずらしい試合。

日本ビクター（茨城）13（5－4、8－4）8 東北ムネカタ（福島）

得	【日ビ】		【東北】	得
0	渡辺	GK	熱海	0
0	鈴木	GK	海村	0
6	加藤	FP（審・森、勝山）	有賀	2
3	穂積		鈴木郁	0
3	額賀		遠藤	2
0	池田		清水	4
1	蓮見		木郷	0
0	斉藤		近内	0
0	藤原		鈴木栄	0
0	染谷		郷	0
			薬谷	0
13（2）		PT		（2）8

ブラザー工業（愛知）8（4－2、4－5）7 大崎電気（埼玉）

○……前半なかばすぎから活発な攻めあいとなったが、ブラザーは後半10分7－5と先行、優位に立った。大崎は15分すぎ二本のPTで同点としたが、ブラザーは19分のPTを守り切って辛勝。

得	【ブエ】		【大崎】	得
0	山本	GK	西村	0
0	浅谷	GK	中島	0
3	小森	FP（審・岩永、横井）	中村	0
1	佐々木		席定	0
0	国府田		大場	1
2	中川		内野	2
2	宮平		西	0
0	山中		深堀	3
0	岩井		吉田	0
0	楠石		陽田	1
0	屋比久		佐々木	0
0	木下		工藤	0
8（1）		PT		（7）7

東京重機（東京）9（4－4、5－3）7 日立栃木（栃木）

得	【重機】		【日立】	得
0	佐久間	GK	桑谷	0
		GK	高橋	0
0	折口	FP（審・西川、長谷川）	小根沢	0
4	村上		桜庭	0
1	町田		山井	1
1	横山		島田	1
1	鈴木		鈴井	0
0	古佐原		大岩	4
0	古谷		田村	0
2	関		荒木	0
0	寺田		箕輪	1
0	細谷		吉田	0
9（1）		PT		（1）7

○……重機は、後半日立のパスの乱れから好機をつかみ村上が連続3ゴールして主導権を握り、17分には9－4と大勢を決めた。

日立は前半早いパスワークで得点、古佐原封じにも成功して健闘したが、後半崩れたのは惜しい。（西川勤也）

（注）東京重機16－8ジャスコ、日本ビクター16－6ブラザー工業、東北ムネカタ9－8日立栃木、立石電機20－9ジャスコは前号既報

ビクター尻あがりの好調

第4週（最終週） 9月23、25、26日の3日間

水海道二高体育館、熊本市体育館、高岡市民体育館、金沢美術工芸大学体育館、石川県体育館で計10試合が行われた。

▽第1日・水海道

日本ビクター 12（8－1、4－1）2 日立栃木

得	【日ビ】		【日立】	得
0	渡辺	GK	桑谷	0
0	鈴木	GK	高橋	0
2	蓮見	FP	鈴井	1
2	池田		小根沢	1
1	額賀		島田	0
3	加藤		大岩	0
1	斉藤		桜庭	0
3	穂積		田村	0
0	染谷		荒木	0
0	藤原		箕輪	0
			山井	0
			吉田	0
12（2）		PT		（0）2

○……ビクターは老巧・池田の先制点で好スタートしたが、そのあとのPTを日立GK桑谷にたてつづけに阻まれたため好機の割に点差が開かなかった。

しかし、ディフェンスが好調で日立の攻撃を封じ20分6－1と主導権を握れた。

日立は守りはともかく、攻撃面で安定感がない。

東京重機 13（12－1、1－6）7 東北ムネカタ

得	【重機】		【東北】	得
0	佐久間	GK	熱海	0
		GK	海村	0
1	古佐原	FP	遠藤	0
3	折口		有賀	3
1	村上		鈴木郁	0
3	町田		清水	3
1	横山		木郷	1
2	鈴木		近内	0
0	古谷		鈴木栄	0
2	関		薬谷	0
0	寺田		郷	0
0	細谷			
13（1）		PT		（0）7

○……好調重機は前半で勝負を決め勝ち点10となった。

重機は折口を中心に速い動きと固いディフェンスで一方的にムネカタを押しまくり差を拡げた。

ムネカタは後半10分までに4点をあげ、守っても重機に18分までゴールを許さなかったのだが、あまりにも前半の傷口が大きすぎた（広沢義邦）

ジャスコ 14（7－4、7－5）9 大崎電気

得	【ジャ】		【大崎】	得
0	久保	GK	西村	0
0	山本	GK	中島	0
3	平田	FP	中村	0
3	松下		席定	4
2	林		陽田	0
2	金田		内野	1
3	鈴木		大場	1
0	笠		深堀	1
1	若田		佐々木	0
0	河田		西	2
			工藤	0
			吉田	0
14（1）		PT		（0）9

○……1－3と先行された大崎は13分深堀のゴールを口火に4点を奪い一気に逆転したが、そのあと後半10分まで加点がなくジャスコの立ち直りを許し、後半15分12－6とジャスコペースになった。

確実みで立石しのぐ

▽同・熊本

立石電機 19（8－4、11－5）9 ブラザー工業

○……2、5分のPTを活かした立石は11分4－0と一方的にリード。

動きに堅さの残っていたブラザーに柔らかさが出てきたのは14分をすぎたころからだった。

得	【立石】		【ブエ】	得
0	和田	GK	山本	0
0	丸山	GK	浅谷	0
1	篠田	FP（審・谷鵬、中津海）	岩井	1
5	山下		佐々木	2
1	平下		国府田	2
0	紀野		小森	3
6	島田		中川	0
3	蔵田		宮平	1
3	池潤		山中	0
0	林		楠石	0
0	実松		屋比久	0
0	田島		木下	0
19（5）		PT		（1）9

エース小森が下からたたきこんだあと、18分にはゴール右上にミドルを決めて大砲ぶりを発揮。

しかし立石も着実に得点を重ねて前半でダブルスコア。

後半はポストプレーの立石に対しブラザーも速攻が決まりだしたが、確実性において立石が上だった。15分すぎ立石は池潤、蔵田がPTを生かして14－8、そのあと同じようにブラザーもPTのチャンスを迎えながら3本のうち1本しか生かせず、ここで差を縮めきれないのが致命傷となった。（熊本日々新聞戦評から）

▽第2日・高岡

ブラザー工業 11（3－3、8－3）6 東北ムネカタ

……☆女子ベストセブン……

▽GK 和田 祥子

▽FP

島田 夏枝

蔵田 照美

（以上立石電機）

加藤美起子

（日本ビクター）

古佐原ひろ子

（東京重機）

小森久里子

（ブラザー工業）

鈴木 洋子

（ジャスコ）

日本ハンドボールリーグ女子勝敗表

	立石	ビク	重機	ブエ	ジャ	日立	大崎	東北	勝ち点	勝	分	負	総得点	総失点	得失点差
① 立石電機	………	○10－9	・14－16	○19－9	○20－9	○14－11	○17－7	○20－7	12	6	0	1	114	68	46
② 日本ビクター	・9－10	………	○12－10	○16－6	△8－8	○12－2	○9－8	○13－8	11	5	1	1	79	52	27
③ 東京重機	○16－14	・10－12	………	・7－15	○16－8	○9－7	○12－9	○13－7	10	5	0	2	83	72	11
④ ブラザー工業	・9－19	・6－16	○15－7	………	・7－10	○13－4	○8－7	○11－6	8	4	0	3	69	69	0
⑤ ジャスコ	・9－20	△8－8	・8－16	○10－7	………	・8－11	○14－9	○13－7	7	3	1	3	70	78	－8
⑥ 日立栃木	・11－14	・2－12	・7－9	・4－13	○11－8	………	○9－8	・8－9	4	2	0	5	52	73	－21
⑦ 大崎電気	・7－17	・8－9	・9－12	・7－8	・9－14	・8－9	………	○11－6	2	1	0	6	59	75	－16
⑧ 東北ムネカタ	・7－20	・8－13	・7－13	・6－11	・7－13	○9－8	・6－11	………	2	1	0	6	50	89	－39

得	【東北】		【ブ工】	得
0	熱海	GK	山本	0
0	海村	GK	浅谷	0
1	近内	FP	佐々木	1
1	本郷		国府田	1
1	清水		中川	2
0	鈴木郁		小森	5
3	有賀	（審・山口 田嶋）	山中	1
0	遠藤		岩井	0
0	鈴木栄		楠石	0
0	薫谷		宮平	1
0	郷		屋比久	0
			木下	0

6（0） PT （2）11

○……ムネカタは0－2から有賀、近内で13分3－2と逆転したが、ブラザーも15分小森が返し勝負は後半に持ちこまれた。

後半のスタートは互角だったが、ブラザーは小森の活躍で先行し、10分すぎ多彩な展開をみせて9－5、どうにか主導権を握った。

ムネカタはゴール前の攻めにもう一つ鋭さがなく善戦にとどまった。（山口吉弘）

日立、ジャスコを降す

日立栃木 11（7－3、4－5）8 ジャスコ

得	【ジャ】		【日立】	得
0	久保	GK	条谷	0
0	山本	GK	高橋	0
0	平田	FP	鈴井	0
2	松下		小根沢	0
3	林		島田	7
0	金田	（審・若山 宮川）	大岩	0
3	鈴木		桜庭	4
0	笠		田村	0
0	若田		荒木	0
0	河田		箕輪	0
			山井	0
			吉田	0

8（0） PT （0）11

○……日立は島田7点、桜庭4点とこの二人の得点でジャスコをねじふせた。

先制したのはジャスコだったが、日立は5分から15分まで島田がカットイン、ハーフロングで得点、そのあと桜庭が点をあげて主導権を握った。

ジャスコは後半、病気あがりの河田まで起用して懸命に反撃したのだが、12分6－9までで追いつけなかった。

終始日立ペースの試合で、ジャスコはAクラス入りが微妙になってしまった。（若山　博）

重機、後半なかばに崩れ

日本ビクター 12（3－4、9－6）10 東京重機

得	【重機】		【日ビ】	得
0	佐久間	GK	渡辺	0
		GK	鈴木	0
5	古佐原	FP	穂積	2
0	折口		蓮見	1
2	村上		細賀	5
1	町田	（審・竹野 越田）	加藤	1
1	横山		斉藤	0
1	鈴木		染谷	1
0	古谷		藤原	1
0	関		池田	1
0	寄田			
0	細谷			

10（1） PT （3）12

○……初優勝へ最大の難関を迎えた重機、この一戦に勝って優勝への条件をともかくも確保しておきたいビクター。期待どおりの熱戦になった。

重機は出足よく5分2－0としたが、ビクターも13分同点に追いつき、そのあと重機が古佐原、ビクターがPTで1点づつを加えたあと、重機は18分古佐原が勝ちこし点をあげた。

後半はビクターが6分加藤の逆転打を活かして押し気味となったが、重機も1点差で食いつきゲームを盛りあげた。

しかし、ビクターは15分すぎ蓮見、細賀、穂積が高い位置から好シュートをとばして4点差としたのが大きく、終盤の重機の粘りをふり払って勝利をものにした。好試合だった。（竹野秀輝）

ブラザー、重機に勝つ

▽第3日（最終日）・金沢

ジャスコ 13（7－5、6－2）7 東北ムネカタ

得	【東北】		【ジャ】	得
0	熱海	GK	久保	0
0	海村	GK	山本	0
0	遠藤	FP	平田	1
5	有賀		松下	5
0	清水		林	0
2	本郷	（審・宮田 中山）	金田	1
0	近内		鈴木	3
0	鈴木		河田	3
0	薫谷		笠	0
0	郷		若田	0

7（0） PT （2）13

○……勝てば8位脱出の望みがでる東北は有賀の活躍で15分5－4と先行したのだが、そのあとジャスコの攻撃を受けて優位を手放し後半は鈴木、松下らのシュートを活かすジャスコの一方的な展開になってしまった。（宮田紘郎）

ブラザー工業 15（7－4、8－3）7 東京重機

得	【重機】		【ブ工】	得
0	佐久間	GK	山本	0
		GK	浅谷	0
2	古佐原	FP	岩井	1
0	折口		山中	0
1	村上		小森	1
0	町田		佐々木	6
2	鈴木	（審・竹野 越田）	宮平	3
0	古谷		国府田	3
2	関		中川	1
0	寄田		楠石	0
0	細谷		木下	0
0	横山		尾比久	0

7（1） PT （0）15

〇……立石に一線に並ばれた重機同率で終った場合、得失点差では重機不利。大量差でこの試合をモノにしたいところだったが、ブラザーは重機戦になると目の色がかわる。

はたしてブラザーは10分1―3の劣勢から佐々木の速攻、国府田宮平の巧技で一気に逆転、前半終了まぎわにも3点を連取、優位に立った。

重機は古佐原が前半なかばすぎから完全にマークされ、しかもPTをはずすなどあって後半3分5―7としたのが精いっぱい。

そのあとは気力にあふれたブラザーの猛攻をうけて20分14―5、万事休した。あまりにも古佐原の個人技に頼りすぎたと思う。

ブラザーはAクラスを確保、一方、重機は最終週に来て手痛い2連敗をきっし、野望ならなかった。このあたりが長期転戦システムの難しさであり、見る側にとっては面白さである。（越田）

▽同・石川県体育館

立石電機 17（9―3、8―4）7 大崎電気

〇……立石は勝てば文句なし、引き分けるとビクターとの得失点差争い、敗れれば一転ビクター優勝という微妙な立ち場。固くなるのでは、とみられたがオリンピック代表5人を揃える地力はさすが。4分2―1とせりあったものの、

	【大崎】	得		【立石】	得
GK	西村	0	GK	和田	0
GK	中島	0	GK	丸山	0
FP	中村	1	FP	篠田	3
FP	席定	1	FP	山下	0
FP	内野	1	FP	平下	1
FP	大場	2	FP	紀野	2
FP	深堀	0	FP	崎田	2
FP	佐々木	0	FP	蔵田	2
FP	西	1	FP	池淵	4
FP	工藤	0	FP	林	1
FP	吉田	0	FP	実松	0
FP	揚田	1	FP	田島	2

（審・山嶋、山口）

17（1） PT （0）7

そのあと池淵、篠田、島田らがラッシュ、15分9―2とリードした。

18分から後半6分まで追加点はなかったが、守りの固さで大崎に反撃の機会を与えず、15分すぎ再びコンビネーションが整うとスカイプレー、ブロップレーなどから好シュートを決めて勝利を不動のものとし、初のリーグチャンピオンの栄光に輝やいた。（山口）

立石・井葉監督の話 最後にきて重機が2敗するとは考えなかった。よくて得失点差争いとみていただけに〝単独1位〟となったのはラッキーかもしれない。

それにしても国内の大会で、これほど疲れた経験は初めてだ。

選手たちは重機に敗れたあと心身ともにくたびれはてていたがよく踏ん張ってくれた。

女子個人得点15傑

①	額賀	（日ビ）	26点
②	島田	（立石）	21
②	加藤	（日ビ）	21
④	池淵	（立石）	20
④	有賀	（東北）	20
⑥	紀野	（立石）	18
⑥	蔵田	（立石）	18
⑥	小森	（ブエ）	18
⑥	島田	（日立）	18
⑩	古佐原	（重機）	17
⑩	村上	（重機）	17
⑩	西	（大崎）	17
⑬	松下	（ジャ）	16
⑬	清水	（東北）	16
⑮	鈴木	（ジャ）	15

盛りあげた重機

新進・若手の活躍光る

＜総　評＞

優勝した大同・中浜、立石・井両監督が異句同音にいったのは「疲れた」という言葉。

各地転戦のシステムは、ともに実業団リーグで経験ずみのハズだが、特に精神的な重圧はその比でなかったのだろう。

最大の理由は、チーム内外が「日本リーグ」というので深い関心を示したことのようだ。

これはなにもこの両チームに限った話ではない。

ある企業チームの職場では、試合翌日、リーグの結果がひとしきり話題になったという。

ハンドボールを少しでも知ってもらおうとした目的は、ある程度果せた第1回リーグだった

もちろん肉体的にも、これまでの大会とはまったく異質の疲れがつきまとったようだ。

井監督は「リーグを乗り切るには選手層をよほど厚くしないとダメ。やがて7人の勝負から15人（フルエントリー）の勝負になろう」とみる。

優勝争いは、男子よりも女子のほうがはるかに面白かった。

その主役は東京重機。緒戦で難敵の日本ビクターを降して一歩も二歩も先行した立石電機を大阪でつかまえ、以後は重機中心の舞台にしたのだからみごとだった。

この一戦で、ビクターも再び色めき立ったし、その他のチームも刺激された。

最終週でつまづいて栄冠を逸したが、ベテランの古佐原は「優勝を意識しはじめて苦しくなった。心身ともにコンディショニングが難しい」と敗因を話す。立石は地力で他チームに優り、重機戦の負けをはねのけたのは〝女王〟の名にふさわしい戦いぶりだ。

男子は、最大の焦点・大同×湧永が16度同点という期待にたがわぬ熱戦の末引き分け、両チームの〝貯金争い〟という展開になったのは味気なくもあり、ある面スリリングでもあった。

結局、最終日を待たず大同が優勝を決め盛り上りには欠けたが、両者の力が抜群とみられていただけに、大崎電気が湧永を倒したのは痛快だった。

「たばこ代まで切りつめて経費を捻出」（9月12日付朝日）して敢然と乗りこんだ大阪イーグルスが五分の星を残したのは賞讃される。1試合々々を大切に戦う姿は、ともすれば星勘定に走り勝ちな他チームも大いに見習って欲しい。

リーグの魅力の一つである個人の動きもまずまずで、得点王ベストセブンに反映された。

とりわけ、藤中（大同）の迫力に満ちたプレーは、各地でファンをたんのうさせた。

男女オリンピック選手の活躍はさすがだったが、新しい力の抬頭もよかった。男子では実績のある村田（三景）のほか、中嶌（三景）、大熊（大崎）、大庭（日新）、山本（湧永）らがシャープなプレーで目立ち、女子では島田（日立）が躍り出たほか、池渕（立石）西（大崎）、清水（東北）らの若手が伸びた。全日本の新進・加藤（日ビ）、紀野（立石）、小森（ブラザー）らがオリンピック出場で自信をつけたのもたのもしい。

こうした中で、大崎（男）のGK福本が年齢（38才）を感じさせぬプレーで第一線に立ちつづけたのが、ビクターの池田夫人とともに光る。

第2回リーグの開幕が待ち遠しい。

世界へはばたけ日本のハンドボール

（協賛者御芳名・順不同）

美津濃 adidas 特約店
昌永スポーツ
甲府市中央四丁目桜りアーケード街

高級帯地
一秀
京都市上京区堀川通今出川下ル西側
西陣産業会館内
TEL (075) 431―0147

京都染色資材株式会社
出野勝志
京都市中京区壬生大竹町54
TEL (075) 811―5531

スプリンター・スターレットの
トヨタオートヤサカ株式会社
本社 京都市中京区壬生仙念町5番地
TEL (075) 802―0151(大代表)

全道一を誇るスポーツ用品専門店
(株) スポーツハウス
釧路営業所 釧路市北大通10丁目
(23) ―1526

松の寿司
植田和子
(清水市立商業高等学校ハンドボール部3年生)
清水市銀座1番3号 TEL66―3063

塩山病院
山梨県塩山市上於曽

株式会社 **加藤組**
代表取締役 加藤憲
函館市千才町3―2

鳥のデパート＜鳥料理＞
たぐち会館
田口欽一 (旧姓 湯山)
(昭45日本体育大学ハンドボール部卒業)
静岡県清水市銀座12番12号

ソニービデオとトリニトロンカラーの専門店
寿電化サービス
代表者 川口攻
山梨県甲府市宝2丁目27―14
電話 0552―26―0319

技術と経験で奉仕する店
望月スポーツ
釧路市錦町5―1 電(23) ―7255
支店くしろデパートスポーツコーナー 電(24―4721

たのしく学ぶ 明るい学園
学校法人 花園学園
梅花幼稚園
静岡県清水市南岡町3―8

地場産業に貢献する
奥山不動産
代表取締役 奥山仙治郎
甲府市丸の内2丁目14―3
電話(0552)24―3265・5698

株式会社 **松本組**
取締役社長 松本演之
本社 函館市吉川町4番30号
札幌支店 札幌市北区37条西4丁目安田ビル5F

茂津目精肉店
茂津目勝仁
(静岡県清水商高男子ハンドボール部父母の会顧問)
静岡県清水市桜ケ丘54 TEL 0543―52―1951

上田茂行

山梨県ハンドボール協会
会長 植野保

山梨県ハンドボール協会
副会長 天川正次

能登・和倉温泉
政府登録 国際観光旅館 **加賀屋**
石川県七尾市和倉温泉・TEL大代表(076762)2111

株式会社 **函館小型運送**
本社営業所 函館市西桔梗町589番地
(流通センター内)
電話(0138)代表49―5131
札幌連絡所 札幌市白石区菊水元町73
電話 (011) 861―8178

日本ハンドボールリーグへの注文 ②

幅広いファン獲得に努力を

竹市行男（共同通信社運動部）

好むと好まざるとにかかわらずメジャースポーツとマイナースポーツがある。何をベースにしてかにより差もあろう。

一般的にわれわれが使う場合、競技人口や技術の高低、会場の良否などではなく、そのスポーツを運営する母体組織の意識や能力、行動力などという抽象的なものまでが対照となる。

たとえば大会運営上で、どれだけ幅広い人々のことを頭に描いているか、その人たちにどのようにアピールしようとしているか、その方法は?。運営母体組織の活動範囲や人的構成はどうだろうか、十分に訓練された必要事項を忘れていないかなども大切だ。たしかにアマチュアスポーツ界の大会運営はプロのと違う。だが、選手らはアマであっても、入場料をなにがしか取って試合を見せる以上、大会運営者はアマでは困る。まあセミプロぐらいな性格でいてもらいたいものだ。知っている限りメジャースポーツは実によく他人様のことを考えている。広いファン層にアピールしようと努力しているのだ。前ぶれ、カードの組み方時間帯、開催地はもとより観客席の作り方、初心者でも興味を引かれるような見所、解説。etc、本職のPR担当者を雇っているのではないかと思われるくらいタイミングが巧みだ。マイナーはどうだろう。要するに逆なのだ。大会運営者や選手、役員だけが対照でファンや観客は二の次。自分たちで楽しんでしまうケースが多いようだ。1日4試合を一会場でやったらどうなるだろうか。かなり精巧なスコアカードをつけていない限り、帰路ではみな同じような印象しか残らないのではなかろうかまず〃相手（チーム）変われど主（観客）変わらず〃では、主を疲れさせるだけだ。得策でない。

日本のスポーツ界はどういうわけか『土日と祭日』開催にこだわるようだ。観客のことを十分に考えてのことかも知れない。が、スポーツ行事の多い週末などでは各競技団体がファンの取りっこをしているといってもいい過ぎではなかろう。

固定観念を破り、ウイークデーの夜にでも少ない試合数の充実したゲームを一家で楽しませてみてはどうだろう。それもカラーフルでアトラクティーブな大会運営は不可能なものだろうか?。

最近のスポーツイベントは光と音と色の三要素を欠いては成功しないといわれる。それくらいこの三要素は大切なことだ。

競技種目は全く違うが米国のプロバスケットボールを取材した時のことを例に挙げよう。プロだけにその神経の配り方は並大抵のことではなかった。光と音と色を巧みに使いこなしまるで劇場にいるような気にさえさせられた。

プロ以外では全米大学バスケットボール選手権でも全く同じだった。サル真似をする必要ないが、その底にある〃配慮〃を真似しても恥しいと思わないが……。大会運営者は国内の各種日本リーグやビッグイベントを敵前視察し、新機軸を生みだすぐらいの事をしてもおかしくないと思うがどんなものだろう。

無神経な日程編成

改田智洋（朝日新聞社名古屋運動部）

▽審判員　開催県の審判員が当っていた。ところが実業団の試合を吹いた経験が少ないためか、「スピードについていけない」の声が審判員自身から出たと聞く。日本リーグを吹く審判員はA級ということだが、これではおそまつ。また地元のチームの試合を担当するという不自然さも出た。勿論審判の方は公正に笛を吹いていたと思う。だが相手チームは必ずしもそうは見ていなかった。こういう〃疑惑〃を持たれることのないように今後は日本協会で日本リーグが吹ける審判員を養成したうえでチームと関係ない地区の審判員を派遣すべきだ。審判の笛が選手の技術向上にいかに大きな影響を与えるかをこの際見直してみるべきではないだろうか。

▽選手のモラル　審判の不手際はたしかにあった。しかし、審判の判定は絶対的なもの。（それだけ審判の責任は重いのだが……）それに対してコート内で大声をあげて文句をいうばかりか、ボールをコート外に思い切りけりだすなどの態度を取った選手がいた。全日本を背負って立つ彼らはプレーばかりでなく態度も立派でなくては

いけない。常に次代の選手たちが手本にするからだ。それも出来ない選手は日本リーグに出場する資格はないといってもいい過ぎではないと思う。

▽日程とカードの組み方　地方の人に好ゲームを見せる。このうたい文句はある程度はたせたと思う日本リーグの試合そのものが、どのカードでもいい試合という前提に立てばだ。だが、男子の大同―湧永、大同―三景、女子の立石―重機、ビクター―立石の好カードはやはり東京と大阪だった。この両地区は全日本総合、実業団などで常にいいゲームを見ているのでもう少し分散させてもよかったのではないか。また日本協会は参加チームの実力を知らないのだろうかと思われる節がある。優勝を争うと思われる男子の大同―湧永、女子の重機―立石のゲームを第二週。さらに女子の立石―ビクターが開幕日。「第1回だから」ではすまされないほど無神経な日程だ。

▽記録　後藤氏（前号）のように感じたのは東京だからではないだろうか。四日市の記録が大阪にはいったり私はあまりいいとは思わなかった。さらにテーブルで登録選手全員を背番号順に並べていたが

日本協会は準備不足ではなかったか

島田房二

日本リーグを運営した一人として日本協会及びリーグ運営委員会に種々の問題を提起したいと思います。

まず始めに、ハンドボールを愛する私どもの念願であった日本リーグが始まり、第1回大会の運営を手伝えたことを光栄に思うと同時に、また、主管者の一員として最大の効果をあげられなかったことをファンの皆様と日本協会、リーグ運営委員会の方々にお詫びいたします。

（1）大会開催日について

基本的にはあくまで地方協会の希望を活かして欲しい。例えば当協会は、8月27～29日に関東選手権（兼国体予選）を開催することになっており、9月4 5日のリーグ開催はムリという判断で当初ことわりつづけたが記念大会ということで引き受けざるを得ない結果になった。

これは既に両日、国際試合の予定で会場（東京体育館）を借りてしまっていたこと（注・日本協会名儀）に起因し、日本協会の計画の安易さが原因であると思われる。

（2）報道関係への発表について

リーグ開幕について前日の新聞などにほとんど記事らしいものが出ず、わずかにリーグ発足パーティのあった日のニュースが、それらしいものであったのは非常に残念、と同時に日本協会会長、理事長に一そうの奮起を促したいと思うのである。

第1日（東京）の入場者はたしかに少なく淋しかったが、来てくれたのは熱心なファンであり少くとも日本協会の人は、報道関係者の質疑に対して「数少い入場者」ではなく「熱心なファン」であることを強調して〝発表〟して欲しかった。

観客動員のための私どもの努力も、関東選手権終了後1週間という時間的制約の中で存分に発揮できなかったこともあるが報道機関に対する日本協会の処しかた、またポスターなどＰＲに対する努力のなさは、日本協会の無責任さ、怠慢さであると思う。

（3）開催権料について

リーグ実施によって日本協会には100万円以上の開催権料が入るハズだが、その使途について考えなおす余地があると思える。

権料の提出先が日本協会だということも納得がいかない。

まず最初はリーグ運営委員会に提出（納入）し、選手の交通費程度は出すべきであると思う。

選手に環元するならば各地方協会も進んで協力するだろう。

日本協会の運営資金不足も理解するが、各地方協会もまた更にそうであると思えるからだ。

（4）開催にあたっての日本協会及び運営委員会の姿勢について

開会式当日（東京）は日本協会及びリーグ運営委員会の主な役員数名が大会を見守ったが、第2日（東京）の試合前に来場していたのは安藤運営委員会副委員長のみであった。

開会式の日本協会・荒川理事長の挨拶も、現実との差の中で単に虚しいものであったように思われる。

総じて、日本協会、リーグ運営委員会が準備なくスタートした日本リーグであって、「日本リーグ」の名に恥ずかしい気さえしているのである。

実業団の若い人達の運営委員会への参加など、前向きの姿勢を望み、日本協会、リーグ運営委員会の今後の活躍を期待したいと思う。

（投稿・東京協会副理事長）

先発メンバーには○印を打つ、試合に出なかった選手はチェックするなどしておかないと、今後何試合連続出場がわからなくなる。

▽**参加チーム数**　八チームにしなければならなかっただろうか。女子は数字の上では接戦だったからまだいい。ところが男子はあまりにも実力が違い過ぎていた感じ。二、三十点も差が開くゲームはどんなものだろうか。いいゲームをすればファンは増える。逆に試合が面白くなければファンはいなくなる。これからも八チームを固定するなら、今リーグ下位にはいったチームの奮起を期待したい。

低すぎる運営委員の意識

杉山　茂

（NHK運動部）

日本リーグの発足は、いささかマンネリ化している日本協会の運営畑へ新しい人材、若い人材が送りこまれるきっかけとなり、刺激を与えるのではないか、とひそかに期待していたのだが、残念ながら今回は裏切られた。

あまりにも"主役"たるチーム側選出運営委員の意識が低すぎたからだ。

このリーグは、昨年6月、全日本実連が日本実業団リーグを日本リーグに改称しようとした動きが導火役になっている。

「実連では捌ききれないので日本協会の乗りクションをおこし、日本協会の乗ってくるのを狙った」という声もあるが、企業チームにとっては、待望の事業であったハズだ。

最初、腰の重かった日本協会・荒川理事長も、今春ごろから新風を望み運営委員会規程には「彼ら」の腕の揮い場を充分に盛りこませ"協力"を示している。

当然、私も実連畑の論客たちが中心となり、これまでとは一あじちがった運営を見せてくれるものと注目したのだが、舞台裏は徳永委員長自から開会式行進用のプラカードを手造りしなければならぬほどの"人材難"だった。

スタンドから試合を見ている委員、自チームの日程が済むと帰ってしまう委員、お客さんが入りませんねェと人ごとのようにいう委員、なり手がいないので仕方なく引き受けたのですよと迷惑顔さえ浮かべる委員——。

チームは、加盟費20万円、プログラム広告費10万円、それに遠征費などを加えれば1回100万円近い出費になる。

それだけの"投資"をしながら運営に手を染めない理由はなにか

リーグのスポンサー気どりでいてもらっては困るのである。形式的には日本協会の事業だが、リーグはあくまでリーグ当事者のものだからだ。

日本リーグの発展が、参加チーム側のコート外の熱意と努力によって初めて成し遂げられることは先発他競技が証明している。

運営委員会は必死で各方面に「自分たちのリーグ」を売りこんでいたものだ。

運営委員はチームの利益代表ではなく、リーグそのものの顔だ。

そこえいくとハンドボール界は運営委員というポスト自体さえ理解していなかったのではないか。

例えば、東京重機は、当初、監督の近藤金博氏を委員からはずす英断をみせた。

重機側の意気ごみ、認識の深さを示すものとして私は敬意を表していたのだが、なんと運営委員会の初会合席上、近藤氏を委員とするような働きかけがあり、「委員と監督は別」とするせっかくの思惑を無視した。（ましてや近藤氏を審判員に起用するなど、どう説明されても理解できない話）

また、積極的に動ころとした委員もその職掌が明きらかでなく、働きようがなかったという声も耳にする。

日本リーグは、選手たちがいうように「大会が一つ増えただけ」なのであろうか。そうではあるまい。

日本ハンドボール界に革命をもたらすような気迫が運営委員に欲しい。それでなくてなんの日本リーグであろう。

第一、そうした人材を送りこめる余裕のないチームは、いくら強く、巧くても日本リーグへ参加する"資格"はないのである。

──観客動員数(日程順)──		
①	東京体育館	1500(4)
	呉市体育館	3500(2)
②	東京体育館	2800(4)
	徳山市体育館	2500(2)
③	大阪市中央体育館	1500(4)
	四日市市体育館	700(2)
④	大阪市中央体育館	2500(4)
	四日市市体育館	600(2)
⑤	栃木県体育館	500(4)
⑥	清水市体育館	500(2)
	福島市体育館	1500(2)
⑦	愛知県体育館	1000(4)
	京都府立体育館	1700(2)
⑧	ビクター体育館	※50(1)
⑨	ビクター体育館	※50(1)
⑩	水海道二高体育館	200(4)
	熊本市体育館	2500(2)
⑪	高岡市民体育館	1700(5)
⑫	金沢美工大体育館	200(3)
	石川県体育館	1000(2)

○は大会日。（　）は試合数
※は17号台風による日程変更

多田　優

（読者・東京都）

開幕シリーズというのだろうか東京大会の二日間を見たが、第一に試合数が多すぎた。

いくらハンドボールが好きでもこれではあきてしまうし、なんとなく寒々とした雰囲気だったのもいけない。出場選手が（もちろん男子）、スタンドで着替えている風景もひどいものだと思った。日本リーグを始めるという気構えがやはり欠けていたのではないか。

第二日は、それでも観客が増えたが、スタンドとコートの一体感がまるでない。主催者がムード造りをしないとダメだと思うし、これはファンの側にも、一端の責任はあるように思う。

せっかく、モントリオール後という好タイミングで発足しながらあわただしいお膳立ての印象をまぬがれなかった。来年に希望をかけるものです。（投稿）

木村順一

（読者・大阪市）

大阪での試合は、さすが日本リーグという感じでエキサイトしましたが、トッププレイヤーのマナーが案外悪いのに驚きました。

国際経験で、外国選手のラフなところだけ身につけているのだとしたら気にいりません。

また、プログラムが旧態依然で少しも楽しくないのは残念でした

日本リーグといえどもアマなのだからという考えも大切ですが、やはり、楽しく見せるという演出がなければ、今後大きな発展は期待できないと思います。

楽しませる、というのは練習の時からキビキビした動作を示すことなども含まれます。ただ両チームが集って試合をすればいい、というのでは日本リーグとはいえないと思うのですが——。（投稿）

■「愛知協会史」編さんに協力を

愛知協会はこのほど「同協会史」の編さんを企画、かつて同県ハンドボール界に関係したかたなどから昭和40年度以前の大会記録（県内、東海、中部日本）や行事日程表などの提供を希望しています。

お心あたりのかたや問い合わせは名古屋市南区阿原町1、名南工高気付、浅野克彦さんまで。

■東京で「大学同好会リーグ」

東京都クラブ連盟は、来年度の公式戦（52年度リーグ）から、男子加盟40チームのうち、大学同好会を特別グループとして〃独立〃させることに決めました。

大学同好会がクラブ系の連盟によって組織化された大会を行うのは全国でも初めてのことです。

同連盟によると、参加を予定される同好会は現在のところ次の〃5大学〃。

日吉ク（慶応）、早稲田同好会、立教HB集団、日大商学部、Y・M・C（明治）

同連盟所在地は東京都渋谷区神宮前六の一九の二〇・村田自動車株式会社内。電四〇七―三七三一

■大阪社会人リーグの11、12月

「クラブを作りハンドボールを楽しみませんか」をキャッチフレーズに4月から来年3月までのスケジュールでつづけられている大阪社会人リーグの11、12月の日程は次のとおりです。リーグ途中からの参加も可能です。

▽11月13日(土)、26日(金)
▽12月3日(金)、13日(金)、24日(金)＝いずれも午後6時20分から大阪市立東淀川体育館（電三二一―〇〇〇三）

■「ハンドボールの集い」は20日

日本協会普及指導部による「土曜の集い～月例練習会～」は第8回を迎え、11月20日午後5時から7時まで、いつものように東京オリンピック記念東京青少年総合センターで開かれます。参加費は一人百円。なお、来春1月の集いは第4土曜の22日に変更された。

会場（電・〇三―四六七―七二〇一）は、京王帝都バス「代々木5丁目」、小田急「参宮橋」、地下鉄千代田線「代々木公園」下車

車利用のかたは首都高速4号線代々木ランプが目印です。

◆訂正・本誌前号40頁、国体連続出場記録のうち、新居浜工(愛媛)の最高を19年間としましたが、同校は、第8回にも開催県代表として出場しており、20年間（第8回～第27回）に訂正いたします。

・本誌前号33頁「こんにちはの一言が…」の寄稿者は、石原口秀樹氏（福岡教大）でした。お詫びして訂正いたします。

世界へはばたけ日本のハンドボール

（協賛者御芳名・順不同）

◇モントリオール特集＜第3回＞

「大型」にプラス「経験」を

全日本男子監督　竹野奉昭

昭和49年から私達コーチングスタッフ（東嘉仲コーチ、東一敏マネージャー）がナショナル・チームをお預かりして三年間。49年度6次、50年度12次、51年度4次の強化合宿・国際試合等を重ね、モントリオールオリンピックにおきましては、欧州勢を倒し、ベストエイト又は、入賞を目指し頑張りましたが、残念ながらその夢を果たす事が出来ませんでした。しかし、選手はベストをつくして戦った事をご報告致します。

今後、ナショナルチームは、来年三月初めて行われるアジア選手権（クウエート）、二年後の世界選手権（デンマーク）、そして四年後のモスクワオリンピックを目指して活動しなければなりませんが、それにはいくつかの国内課題を解決する必要があります。

まず機構。現在、男女ナショナルチームは技術部の配下にあるが技術部は国内の技術普及とレベルアップが主目的、世界のトップを目指す頂点強化とはおのずと性質を異にする。

はたして、頂点強化を、技術部の業務の一つとする現行の姿勢でよいのか、疑問に思うのです。

その解決策の一案として、早急に「強化対策部」を設置することが考えられます。

そのセクションが、ナショナルチームに関する一切の体制を整えて当たらなければ、満足な活動は展開できない、といってよい。

頂点強化には技術開発のほか、有望新人の発掘、外国チームの資料収集及び研究等が欠かせない。そして、そのいずれをも専門化した組織が欲しい。

海外の資料は、機関誌編集委員会による収集と、選手達の経験をもとに、数少ない遠征のチャンスを生かし、出場しない者がＶＴＲに収めて帰っているのが現状である。コーチングスタッフの仕事もしかりだ。三人で強化合宿・日程の交渉・金銭問題までやっている私達を信頼して一任して頂くのは有難いのだが、それでいて、一番大切な問題となると納得いかないところが多々ある。

ナショナルチームは日本ハンドボール協会がもつ唯一のチームなのである。役職柄、多忙な方もいらっしゃいますが、日本ハンドボール界のため心身を砕き努力している選手の姿を日本協会の役員、スタッフがもっと興味をもち、強化合宿、試合を観戦し、選手を励ましていただきたいものだ。

体力、技術的なリポートは東コーチから報告するとして、ナショナルチーム周辺の課題につき、更に論を進めたい。

昭和36年西ドイツに於ける世界選手権に参加した全日本の中で、私は身長の高い方から三番目であったが、現在のナショナルプレイヤーの中へ入れば低い方から二番目年々大型化されていることが判るが、世界もまた、それ以上の長身選手の発掘に力をそそいでいる。

世界のトップへ躍進するには、「経験と長身選手の発掘・養成」がやはり不可欠である。日本的な体格で、スピードと動きの速さを持っていたとしても国際舞台ではやはり限界がある。

長身者、大型プレイヤーをいかに国際的に鍛えあげていくかが、今後の〝活路〟であり〝唯一の道〟であると思う。

それを実証するのが藤中、中井（ともに大同特殊鋼・FP）両選手である。

彼らは、昭和44年ルーマニアでの強化合宿参加当時、最年少であり、補欠であった。試合の時はビデオの撮影係をつとめ、練習でもボール拾いが多かった。

しかし、この合宿をスタートに彼らはキャリアを積み、外国のハンドボールを肌で覚え、日本チームはいかに戦うべきかを身につけて、国際的な評価を得るまでの選手に育ったのだ。単に彼らが大型であり、長身であったが故の成長ではなかったのである。

ナショナルチームの大型化を図り、ヨーロッパの強豪、一流国と数多くの試合を経験させ、その中で〝日本独得〟のチームを造らねば、世界のトップへの仲間入りは果たせないであろう。

日本人は頭脳明晰な人種だ。数多くの経験を積めば、檜舞台で〝世界〟と対等に戦える事が出来る。

さらに国内において、外国のナショナルチームを二カ国招待し、全国のハンドボールの愛好者の前で三カ国リーグを行ない、外国チーム同志の対戦を観戦してもらうのも必要であろう。日本の審判員が、世界選手権やオリンピックで活躍される日の近いことを望みつつ、私の報告と、今後の指針への提言としたい。

「体格面」と「技術面」における反省及び今後への指針・要望

全日本男子コーチ
東　嘉　仲

諸々の問題は他のかたにゆずるとして私の直接の分野である体格技術両面での反省と、今後への指針と要望を以下にまとめてみた。

（体格面）ハンドボール競技においても世界は年々「大型化」に向かっている。表1をごらんいただければ対戦国の違いこそあれミュンヘン→モントリオールと大型化への推移が理解いただけよう。

〔表1〕主要国の平均身長と平均体重

国　名	平均身長（cm）		平均体重（kg）	
	ミュンヘン	モントリオール	ミュンヘン	モントリオール
ユーゴ	185.4	187.7	86.2	86.8
ハンガリー	185.5	187.4	82.5	86.0
アメリカ	189.4	189.5	84.7	85.8
日本	179.8	180.8	75.9	77.2
ソ連		188.5		89.2
ルーマニア		189.0		88.0
ポーランド		187.2		86.4
西ドイツ		190.2		87.5
デンマーク		187.0		81.8

モントリオール参加全選手の平均身長 186.3cm
同　　　平均体重 84.5kg

ご承知のように、選手村は各国各種目の選手達が一様に生活している処、データに基づく比較が出来ないのが残念だが、私のフィーリングでハンドボール選手の体格体型が、他の種目のそれに比らべて全般に秀れているように思えたこれは私にとって大きな喜びであり自信となった。

「身体を見れば技術がある程度推測出来る」といわれるが、優勝の原動力となったソ連の闘将マキシモフ（186cm、97kg）、ルーマニアの得点王ビルトラン（194cm、96kg）、ポーランドのエース・左腕クレンベル（192cm、90kg）、ユーゴの得点源ミリヤック（189cm、87kg）、デンマークの名手ニールセン（192cm、88kg）、又ゴールキーパーでもソ連の動かぬ壁イチエンコ（191cm、96kg）、西独のホフマン（190cm、90kg）等は、すばらしい体格の持主であり名選手達である。

だが体格に恵まれない小柄な選手が、独自のトレーニングにより、その天分を伸ばし、活躍していることも見落してはならない。

日本が誇る名シューター藤中憲二（178cm、74kg）、ルーマニアのゲームメーカーであるガッツ（178cm、75kg）、ソ連の名サイドプレイヤー、キドヤフ（176cm、75kg）等が代表される。彼等は大きな選手達の中にあって汗と皿で練られ、作り出された体力であり、技術であることを、吾々は忘れてはならない。

〔表2〕個人得点ベストテンの体格

	身長	体重	得点
①ビルトラン（ルーマニア）	194cm	96K	32
①ラルセン（デンマーク）	190	85	32
③ミリヤック（ユーゴ）	189	87	30
④デッカルム（西ドイツ）	194	90	28
⑤藤中（日本）	178	74	26
⑥ミクエス（チェコ）	182	77	25
⑥ガシイ（ソ連）	189	86	25
⑧アブラハムソン（アメリカ）	191	89	24
⑧ディーン兄（アメリカ）	191	87	24
⑩マキシモフ（ソ連）	186	97	23
⑩クレンベル（ポーランド）	192	90	23

ゴールキーパーの体格にも触れておこう。ソ連、ルーマニア、ポーランド、西独、ユーゴ、ハンガリーの上位6カ国のGKの平均身長は187・7cm、同体重は87・6Kこれに対してチェコ、デンマーク日本、アメリカ、カナダのBクラス5カ国のそれは183・3cm、78Kである。

上位国の体格の秀れていることに注目したい。西独の2人は共に大きく（190・90と192・92）、だぶだぶのユニホームで更に大きく見せてプレイをしていたのは印象深い。

体格に恵まれぬ日本の本田洋が、179cm、77kgの全智全能を駆使しても尚届かぬ悩みが、即ち日本の悩みでもあった。

数学的に見ても今後世界のトップレベルのチームは190cm、90kgの時代が続き、更にそれを越えていくことを考えねばならない。日本も180・8cm、77・2kgと史上最高位の平均身長、体重を要するに至って

〔表3〕日本の試合経過時間（10分毎）別得失点

	前半0～10分	10～20分	20～30分	後半0～10分	10～20分	20～30分	計
日本	2	1	2	1	5	5	16
ソ連	4	5	2	6	4	5	㉖
日本	1	2	2	3	3	5	16
西ドイツ	5	2	4	2	2	4	⑲
日本	1	4	6	2	3	1	17
デンマーク	2	1	5	6	4	3	㉑
日本	5	4	3	2	3	5	22
ユーゴ	4	6	3	5	4	4	㉖
日本	2	5	2	6	5	5	㉕
カナダ	3	4	2	3	4	3	19
日本	5	3	4	4	5	6	㉗
アメリカ	5	2	1	3	5	6	20
日本計	16	19	○19	18	○24	○27	123
対戦各国計	○23	○20	17	○25	21	25	

〔表5〕日本及び上位カードの攻撃分析

試合名	シュート数	得点	シュート率	速攻 回数―得点	ペナルティ 回数―得点	得点にならなかったシュートの分類 ①GKに阻止された数	②FPにブロックされた数	③ゴール外にミスした数	④ポストに当たりリバウンドした数
日本	37(51)	16(13)	0.432	5―3	4―4	11(20)	6(8)	1(9)	3(1)
ソ連	42(47)	㉘(28)	0.619	6―3	2―2	8(9)	2(0)	2(10)	4(0)
日本	43	16	0.372	7―3	7―3	15	5	3	4
西独	38	⑲	0.500	5―3	4―2	16	0	1	2
日本	39(41)	17(13)	0.435	10―6	2―2	17(16)	0(6)	4(2)	1(4)
デンマーク	50(55)	㉑(33)	0.420	6―2	6―4	22(16)	1(1)	1(5)	5(0)
日本	48	22	0.458	11―7	2―2	18	4	2	2
ユーゴ	44	㉕	0.591	9―3	6―6	10	1	2	5
日本	46(43)	㉕(24)	0.543	7―4	6―5	8(8)	5(2)	1(5)	7(4)
カナダ	31(43)	19(15)	0.613	8―1	4―2	8(15)	0(4)	4(9)	0(0)
日本	51(51)	㉗(24)	0.529	15―6	9―6	17(14)	0(7)	1(3)	6(3)
アメリカ	47(42)	20(14)	0.426	7―2	6―4	14(5)	1(7)	5(12)	7(4)
順位決定戦 ソ連	32	⑲	0.594	4―2	5―3	6	0	1	6
ルーマニア	38	15	0.395	5―2	4―2	12	6	1	4
ポーランド	39	㉑	0.594	2―1	4―2	11	1	2	4
西独	41	18	0.395	3―0	3―1	17	2	4	0
ユーゴ	48	㉑	0.438	11―6	3―1	17	1	6	3
ハンガリー	44	19	0.432	9―4	7―5	16	3	3	3
ユーゴ	38	⑳	0.526	3―3	3―2	9	2	1	3
ソ連	40	18	0.45	4―2	3―2	12	4	3	6

（　）内の数字はプレオリンピック（昨秋）での記録

はいるが、はるかに劣勢であることはいうまでもない。
　現時点では体格の差を筋力（早い動き）でおぎない、しかも同時に持久力をもたせねばならない。
　測定の繰り返しだけに止まることなく、専門家の診断に基づいて選手個々がトレーニング・プログラムを消化していけるようなプランの実現を望みたい。
　東独のスポーツが「トレーニング管理」の勝利といわれるように体格で劣る日本が体力増強面での再考がない限り更に遅れをとることだろう。ハンドボール界が先駆けて、大学研究機関と強力なタイアップをして、ナショナルチームの管理トレーニングをしてもらえるよう切に要望したい。
　また現在以上に中学、高校の大型選手の発見と開発、そして早くナショナルチームの技術系列の中で、基本を大切に育てるシステムがスムーズに進めば、遅巻きながらも日本の大型化をともなう力強い戦力となるだろう。
　ミュンヘン以後、蒲生晴明192、菊池悟185、柴田正章186、斉藤将一郎187cmなどが育ったことを考えれば、もっともっと出現しそうに思えてならない。
　終りにハンドボールがチームゲーム故に誤解されてはならないが今大会の得点ベスト10の身長、体重表（表2Ⅱ前頁）を記してみた。

（技術面）
　アジア予選を前に私達は、防禦に於いて積極的ディフェンスとマンツーマンディフェンスの強化をあげ、攻撃に於いては日本が本家本元といわれる速攻の再点検、個人マンツーマン時のシュート力の強化、そして「日本のペース」の確立をめざした。
　緒戦のソ連には又しても完敗であったが、その他のゲームは記録を振り返えると一応の善戦といえる内容であった。敗戦で〃善戦〃という言葉は使うべきでないが、選手達の健闘に感謝と敬意を示したい。現時点で「悔なき戦」といいたい。しかしヨーロッパの壁はやはり高く厚い。止まることは許されない本当の勝負は正にこれからである。
　体格における「大型化」に対し技術面においてはますます「スピード化」が進んでいる。審判のゲーム管理においても、ハンドボール競技が持つ魅力〃スピード〃を最大限発揮させるべく、ストーリングや粗暴なプレイに対する判定の厳格さが見られた。
　今大会の速攻を表5から抜きだすと日本の速攻数は6試合合計で45回、このうち、成功（得点）は29回、つまり成功率は、64％強である。一方、日本の被速攻数は41回でこのうち日本の失点となったのは14回（34％）である。
　速攻力が予々ながら身につきつつあるが、ここ一発の速攻ミスがゲームの流れを変えてしまうことがあった。今後もっともっとフォローとスルーのタイミング、そしてスピードと正確さをつけねばならぬ。
　相手側速攻の防禦面においては今回対戦国のビデオ研究でそなえ成果はあったが、速攻をされない攻めと共に、基本中の基本「早い帰陣」そして「パスコースのコンビによる遮断」等やらなければな

〔表4〕PTの分析

試合	得た数―得点	プレオリンピック 得た数　得点
日本	4―4	0―0
ソ連	4―2	6―5
日本	2―2	3―3
デンマ	6―4	6―6
日本	6―5	3―2
カナダ	4―2	2―2

◇日本が対戦した6カ国との比較（PT）

国名	試合数	得た数	得点	成功率
ソ連	6	21	14	0.666
西ドイツ	6	19	13	0.684
ユーゴ	6	32	23	0.719
デンマーク	6	40	31	0.775
カナダ	6	19	12	0.632
アメリカ	6	19	12	0.632
日本	6	30	22	0.733
ハンガリー	5	36	32	0.888（最高値）

らないことが多い。
次にペナルティスローの表4（前頁）をみると、今大会はかなり攻撃において、突込みが出来たように思える。壁の手前から打ち込むか、それとも壁を突き破るかの攻撃鉄則に変りはないが、攻めについてはメドはついたが、今回ですら一ゲーム平均五本をとられる守りを是正しなければ、対日本作戦としてその弱点をつかれることになろう。身体で守れるフットワークとヨミと、90kgのボディチェックに耐える体力の養成も強化せねばならない。
日本のハンドボール界全般の防禦に対する不安感の要因を考えてみると、
①一般的に攻撃練習にくらべ、防禦練習が質量共に少ない。
②防禦についての理論が系統的に整理、指導されていない。
③ヨミと経験を必要とする防禦に体格、体力に秀れた年長プレイヤーが、日本の社会的事情で永つづきしない。
④若年者の選手指導や優秀選手等の見方が、攻撃優先的になりがちで、地味な防禦に目が届いていない――。
優勝したソ連のクリモフ（195cm・90K）は当年37才、依然としてディフェンスの要であった。
モントリオールからの帰国途上各競技役員との話の中で、バスケットボール代表の阿部成章（日本鉱業・178cm）北原憲彦（明大・201cm）の両君が、ディフェンス要員としてハンドボール界に〃トレード〃が可能なら、球界に大きな刺激となり、また戦力ともなるだろうと成らぬことに心を動かした。
日本はマンツーマン攻防において、攻めは強いが守りは弱い、ボールを保持した時の攻撃能力と共にボールのない処でのヨミと力、即ち一人とチームの関係をチームとして作っていくことだ。
過去日本を訪れた諸外国の監督有名な選手達が「日本は日本独自のハンドボールを!!」といわれたが、速攻、スカイプレー、セットオフェンス（フィニッシュ時の従ばさみ）等、攻撃面では出来つつある。
ゴールキーパーについても体格面のみならず、一球でも多く、ヨーロッパの生きたスピードボールを受けることだ。
どん欲なまでに対外国戦を多く持てる機会が必要である。
表3（20頁）は、10分単位の得点別の表だが、いわゆる「日本のペース」の確立に役立つだろう。
表5（前頁）の得点にならなかったシュートの分類も、各パートで善戦こそしているが今後もっと参考にしたい。
現時点では100%、即ちヨーロッパが現状維持で日本がミスのないパーフェクトハンドボールをした時に勝てるという大きな壁ではあるが、日本のハンドボール技術が自信をもって世界に挑む時が来ているといえる。

サイドの意欲的攻撃目立つ

全日本女子監督　井　　薫

世界のスポーツ界に於ける欧州諸国の影響力と、その国内に於ける普及を物語る様に、オリンピックに参加を認められたばかりのハンドボールではあったが、その知名度は高かった。そして伝えられるアジア諸国の競技国の急増や女子の三大陸予選の実現、更にはラテン系十数カ国でのラテンカップの盛況、そしてモントリオール大会で男女を制覇したソ連での次期オリンピックの開催、等を考え合わせるとき、わがハンドボールの世界的広がりの夢は大きくふくらむばかりである。そして国内に於て、男女のオリンピック出場を期して始められた日本リーグも一応の成果を収めつつある今、オリンピックでのゲームを攻撃の面でふり返りながら、これからの日本がどの様な方向で強化を進めるべきかを考えてみたい。従来の欧州勢の戦法は、
㈠　強引なロングシュート
㈡　体格差を利してのポストプレイの多用
この二点に代表されたが、今回
㈢　速攻の展開力の向上
㈣　サイドの意欲的攻撃
がプラスされ、これ迄の力強さはあっても単調であったものに、シャープさを加えて随分と多彩化して来た事が目立った。
㈢の速攻に関しては、これ迄日本のお家芸といわれていたもので他の得点手段に比べて素早い効率に欧州勢も着目したと思われるが一旦マスターし始めると、そこは長身者の厚いディフェンスの壁、不器用に見えるランニングスタイルながらウエイトを生かした突進力、ボールを操る利点で少々の相手ディフェンスのアタックも、キープして、より適した所へのパス等、体格をフル活用の速攻の展開力を身につけつつある。
㈣サイドシュートはこれまで中央攻撃からのズレで、比較的ノーマークにならなければ、シュートは狙わなかったが、サイド攻撃者単独の動きで、ドリブルやフェイントのカットインが多くなり、そのシュート確率も高い事に加えて

ポスト防御同様、タイミングがワンテンポ遅れるとペナルティに持ち込まれるケースが多くなり、広いディフェンスラインをよぎなくされた。そして㈠～㈣の動きの要めとなるロングシューターが、その役割りに徹して、㈠㈣の動きを生かす場面が多く、又若くてイキの良いキビキビとしたロングシューターが次々と育ってくる厚い選手層に、その強さの一端を見る思いがした。次に日本も、ソ連、東独というトップクラスとの差はまだ感じるものの、東欧の次のクラスに対しては攻撃面で殆んど同等に戦え、特に一点差のゲームを展開したルーマニア戦は、日本の攻撃力が完全に上廻り得たとの自負もある。日本の攻撃で成功率の高かったものは次の様になる。

㈠　速攻

㈡　クイック攻撃からの得点及びペナルティ

㈢　ブロックプレイを組み合わせた、フォーメーションと組織的スカイプレイ

㈣　変則シュート・フリースローの組織攻撃

等であった。

㈠　速攻の展開数は少ないもの、確率的には最も高く、古佐原、島田、山下等が光った。

㈡　早く鋭いパスワークに、サイドやポストからの、古佐原、山下等の瞬間的ダッシュにパスが通ると、次のホローにパスを行いながらのブロックは効果的であり、視野外からの動きが変則シュートにつながるケースも多くポイント出来た。それらから生まれるペナルティを蔵田、松下がよくポイントしてくれた。特に蔵田は、ロングシュート、速攻、カットイン、そしてペナルティと意欲的な攻撃をコンスタントに続けての得点王獲得は日本の攻撃力の部分的向上を物語った。

㈢　二十数組のフォーメーションは三大陸予選と本番で効果があったが、ノーマークは出来ても最後のシュートでキーパーに阻止されるケースも数多く、詰めの甘さが目立った。

㈣　小森や山下のアンダー、松下のスカイは、フリースローにも組み込まれて得点につながったが、変則はあくまで数少く、時折り狙う事で効率もよくなる訳けで、その様な意味からは個々のプレイヤーがもっと多彩さを身につけるべきでもある。

　日本の㈠～㈣との攻撃を考えるとき、そこにもうひとつの迫力、勝負に出る時の切札といえる何かに不足を感じるのは、欧州勢のそれと全く逆で、ロングシューターが少ない事に原因がある。あえて本格的という厳しい見方をすれば皆無に等しい現実といえる。日本の女子チームから本格的ロングシューターが絶えて久しい様に思う。十一人制から七人制に移行してのしばらくは、本当にそれらしき人を幾人か想い浮べる事が出来るが、この数年各自のテクニックの上達は勿論認められるが、スケールという点でどうも満足感を得ない、私自身チームを育成し、全日本を預った立場での発言として無責任の様でもあるが、最近の練習方法にも起因している様に思う。やはり素質豊かな人材に、パワーフルなトレーニングを加えて、更にロングシューターとしての帝王学的見方で育てる機会が少ないのかも知れない。

　さて日本のハンドボール界も大型化をさけばれて久しいが、選手村で見かける東欧のハンドボール・プレイヤーは同国の他のボールゲームのプレイヤーより体格に恵まれている事も少くなかった。そして欧州、特に東欧の街を歩かれた人は、御気付と思うが、国民が総じて大きく選手を志すものはその国で決して大きい人ばかりではないという事、然しそれだから、激しいスポーツに最も要求される旺盛な精神力に支えられ、そして瞬発力が早い、ジャンプ力がある、左利きであるといった特徴を生かした人達である訳けで、日本でも身長を気にとめなかったら、個性を生かし合う事も可能な訳けであるがとにかく小柄な日本人の中で身長のみの大型化から目指さなければならない。日本との諸国欧州との質的ギャップは計り知れないものがある。然し泣き言をいっておれる場合ではなく前進あるのみの現在、理想をいわして貰えれば、一七〇cm以上、強肩、ジャンプ力、敏捷性に優れ、そして強気な性格の人が、左利きを含めて数名育成出来れば、又日本の女子のハンドボールも好ましく変っていくと思われる。

　ロングヒッターを別にした他のチャンスメーカー、速攻、ポストサイド要員は現時点で充分育っているし、現在のロングシューターがそれらに廻れる事のプラス面は大きい。ただこれからのチーム造りは、東独のナショナルチームに前例がある如く、ハンドボール経験者のみからの育成という考えを、もっと拡大して、陸上のランナージャンパー、手首が強くフットワークの基礎をもつテニス、バドミントン、卓球、近くはバレー、特に殆んど同感覚のバスケット経験者の域にまで視野を拡げての人材確保がなりその持ち味が発揮されれば、又一歩飛躍したハンドボールがそこに展開される事は必至である。

　男女オリンピック種目であり、アジア大会にも加入が伝えられ、前述の如く、世界的広がりを見せるハンドボールの魅力が今大きく理解されようとしている時こそ、この様な考えを持つにふさわしいといえる。

　そしてそれらの人材をやはり数多くの国際的場面で鍛える事が先決である事は、既に協会首脳の方々の認識も深く、今後の若い人達は大いなる夢を抱いて、ハンドボールにとり組む事が出来ると思う。ハンドボールのとらえ方は攻防一体でなければ語りにくいものであるが、今回は攻撃面だけで考えてみた。

男子決勝をNHKで放映

NHKでは、恒例のオリンピックボールゲーム決勝シリーズを12月に計画しているが、ハンドボールは男子決勝・ソ連×ルーマニア戦（モントリオールフォーラム）が12月4日午後4時から1時間総合テレビで放映される予定。

　制作はカナダ放送（ORTO）、担当アナウンサーは鈴木文弥氏（NHK）。

測りしれない東欧勢の底力

全日本女子コーチ　鈴木義男

　約四十一日間の長期にわたる遠征を果し然も期間中に三大陸代表決定戦とオリンピックの両大会を消化することは選手にとって厳しいことであったと思う。使命達成のため連日最善を尽してくれた選手の皆さんにあらためて感謝したい。

　特に今まで誰もなし得なかった過去三回世界選手権に出場の島田古佐原の二選手はヨーロッパ選手に匹敵する見事なプレーにより日本チームのピンチを再三救い若手選手をよくリードし、陰に陽にそのベテラン振りを存分に発揮しオリンピック出場への最大の力となったことに心からの祝福を送りたい。

　さて出発前の国内合宿では昨冬の世界選手権の経験から三大陸代表決定戦には日本持味の各種プレーにみがきをかけること、速攻を成功させるための積極的ディフェンス・フォーメーションの徹底をはかることなどに照準を合わせて連日練習を続けて来た。

　とに角、各国のオリンピックにかける執念は日本に勝るとも劣らず勝つためには手段を選ばない場面も何度かあり苦しいゲームを強いられた。しかし幸運なことにアメリカ、チュニジアはパスワークこそヨーロッパに劣らないがエリア前の突進力、強引なプレーをマスターしていなかったのである。今までの試合では身体の小さい日本チームは強引な突進力に随分なやまされ苦しめられたのであるが

　防禦力に余裕が出来れば当然持味の速攻のチャンスが生まれて、試合はマイペースである。かくして三大陸代表決定戦に全勝して、モントリオール行きが決定した瞬間全員から重苦しい緊張感はふっ飛び、どの顔も明るさがよみがえり喜びの中にもオリンピック出場への決意の程がうかがわれ実に頼もしい限りであった。

　そして長い間夢であった念願の男女出場のオリンピックにはお互いに励まし合って持てる力を存分に発揮して頑張ったのであるが相変わらず東欧の堅城は頑としてゆるがず僅かにルーマニアに一点差の接戦をしたに過ぎなかった。

　今までの選手強化から今日のオリンピックまで我々がたずさわった戦績を回顧する時必ずしも進歩したとは言いがたく深く反省し責任を痛感するものである。

　然し率直に申すならばそう簡単に倒せる東欧ハンドボールではないと思う。体格差・キャリア・地域性・層の厚さ等による強さ、たくましさは一朝一夕に生まれ来たものではない。

　どれだけ追いつめても勝てまい点差を縮めることは出来まい。その力たるや実に根深いものがありほんとうに測りしれない底力を持っている。これはルーマニア戦の一点差が如実にすべてを物語っているのではなかろうか。

　日本ハンドボールも昨日より今日、今日より明日へと一歩一歩辛抱強く夢を将来に託して前進を続け東欧のレベルに到達するよう全力をあげるべきだと思う。

　技術面で強く感じたことを記して見たい。全般的に防禦技術が向上すればする程多種多様各コースからの攻めが考え出される。特に今回はサイド攻撃が多用されるようになり、サイドのディフェンスはその余力を速攻のスタートダッシュに使えない程引きつけられ足止めをされる。ところで体格の相違をまざまざ感ずるのは防禦の時である。ただ終始防禦に追われるのでなく機を見て一瞬攻撃に転じ得る所謂積極的ディフェンス即ち瞬発力の養成こそ喫緊の問題であると思う。

　とに角早急にモスクワ対策を樹立して手をうたなければ折角道が開かれたオリンピックどころかアジア予選、大陸予選さえ通過出来なくなるような憂き目を見ることは必至である。

　今まで再三論じつくされたこと以外には目新しい問題はないが気づくままに課題的にあげて見よう

①底面拡大に努め層を厚くすること
②技術的には防禦技術の研究と徹底的訓練
③国際試合経験のため海外遠征を多くして肌でおぼえる対応力の養成
④高校での優秀選手をオリンピック候補にしてハンドボールを続けさせることにより強化できないものか。

　今後はと言うより今日から広い底面の中から選手を見つけ出し彼等の持てる可能性を十分に伸ばし訓練して、いわゆる外国に通じる選手の育成に真剣に取り組むべきだと思う。

日本が「ベスト８」へ進むには……

―続・男子代表選手寄稿―

松原　光三

昨日より今日、今日より明日へと何事においても進歩、上昇を願うのが人間の常である。マイナースポーツからポピュラースポーツへ、下位チームから上位チームへと現在の日本ハンドボール界が発展向上することを願うのも我々のいつわらざる気持である。そしてこの願いは、日本協会上層部であっても、ナショナルチームの一員であっても、また一ハンドボールファンであっても立場こそ違え、皆同じではないでしょうか。

では日本が勝つにはどうしたらよいか。いいかえると欧州諸国に勝つためには、現時点でどのような問題が感じられるか、直接現場にたずさわった選手の一人として腹心のない感じたままを述べてみたいと思います。

まずチームの内面的要因として第一に海外遠征による国際試合の経験不足、第二に選手養成の体系化並びに勝つための選手ばかりでなく負けないための選手の養成、第三に海外留学制度等による的確な情報の収集、が考えられます。

次に外面的要因、すなわちチームを取りまく環境の問題として第一に審判技術の相違、第二に強化資金の調達問題、第三に頂点強化を計るための組織の活性化等、以上の要因が考えられます。

私はここで何も目新しい争を書いたつもりはありません。全て過去幾多の先輩諸答が示唆された事柄ばかりである。今やらなければならない事は、又必要なことは、百の議論よりも一つの実行ではないだろうか。

そしてその前提として「小異を捨て、大同につく」のチームプレーの根本精神を各人が再認識し、現在、ハンドボール界が充実向上するために抱えている諸問題に対し、積極的に取組み、施策の実践が急務と考えます。

（FP・大同特殊鋼）

佐々木健一

モントリオールオリンピックを終えて、今思い起こすと、やはり念願の6位入賞を果たせなかった事のくやしさと、世界のレベルがミュンヘンの時より急成長している事に驚いた。日本もそれ以上の成長を示しているのに、と思うと9位の成績が余計くやしい。目標は達成出来なかったが、これから日本が世界に抬頭するステップが踏まれた事は間違いない。日本が世界で勝ち抜く為にはと聞かれても、私には明確な解答は出来ないが、感じたままに言うと、まず、第一に、体格の差から出るパワーの差、個人の攻防のテクニックの差、その上に2人以上によるコンビネーションプレーのテクニック――これらの技術が彼らと日本と方法の違いがあるのだ。この様な事は以前から解ってたが現状は惜敗してしまう。しかし日本人しか出来ない高度なテクニックが数多く有る事も事実である。これらの差を速く詰め、また方法の違いに慣れると共に情報の収集が必要になってくる。第二に日本は地理的条件が悪い為、東欧の現状を常に収集は出来ない事もかなりのハンディを背負うことになっている。今回優勝したソ連はディフェンスに2m選手を3人も置いていた。これは、ルーマニアのロングシューター群を止める為、また各国の長身ゲッターを防ぐ為だと言われ情報から計算されているものと思われる。日本のプレイヤーも最近大型化しているが、攻防共に力のある選手が必要となってきている。そして小柄な選手は速い動きで大型選手とかみ合う事が条件となっている。こうした差や条件を一日も速く満たす事によって、日本も東欧諸国と対等に戦い得ると思う。世界を考えると日本はまだまだチャンスが充分ある。私もハンドボールに今以上打ち込みたく思います。今回の大事な機会を私に与えて下さった事を深く感謝する気持でいっぱいです。（FP・三景）

菊池　悟

オリンピック……。素晴らしい響きのあることばです。しかし、常に勝負があり結果がさまざまに判断され、そしてさまざまに批判されるのも事実です。

我々は、目標を六位以内とし、精一杯戦かった結果「九位」という成績でした。欧州勢と三～四点差という僅差まで日本のハンドボールは前進してきたのだと思います。

日本が「ベスト8」へ進むには?……。この三～四点差の壁が、日本ハンドボール界大体が一番大切な時期を迎えている事を示している様に思います。

国際舞台へ日本が乗り出して何年経過したでしょうか?。その間何度となく同じ事を言い繰り返されてきたでしょうか。

ナショナルも一つのチームですが、国内に於いては個々、ある程度のレベルを持ったプレーヤーですがチームとしてその個々の力を充分に発揮するには、やはりどこにでもあるチーム同様「それなりの時間」をかけ、「それなりのチーム経験(国際試合)」をして初めて構成されるのだと思います。その事による個々のチーム内における呼吸、対外的には〝慣れ〟というチームゲームに一番不可欠な事を無意識の中に持てる様に思うのです。それが自信となって表面化した事に……。

共産圏諸国のスポーツの有り方をどうこう言っても、我々は日本の土壌の中でプレーしなくてはなりません。組織そのものの比較はできても勝負とは別ですので何も言えません。

「もうすぐベスト8へ入れそうです」とタイトルを変えて、予算問題、国の組織問題など、その他散在する諸問題を除々に前向きに解決していった場合、大きさ（素材優秀な素材）と、長い時間（チームとして成立する）と、慣れるまでの国際試合とその研究と分析が、もっともっと大がかりな事となって行なわれて、現在より「一歩だけ」前進した時期を迎えると思います。

（FP・東京12チャンネルHC－稲球会）

藤中　憲二

ナショナルチームでの生活も6年過ぎた今日、外国チームを見、そして51試合の公式国際試合を経験して、ハンドボール競技は日本人に合ったスポーツであると思うことと、日本が世界に勝てる〜Aクラス入賞〜のには、あと10年以上の〃時〃が必要であるという感想をもつ。

その理由として、私の先輩には数人の偉大なプレイヤーがおり、そしてハンドボールへの情熱に燃える者が多かったのであるが、現在、私の年下の者やこれから成長しようとする者で、諸先輩に匹敵するプレイヤーが見当らないことをあげたいのである。

たしかに、モントリオールでは好ゲームができた。得点差も縮まった。

が、好ゲームができたのと、勝ったのとでは、天と地との差である。試合に勝つためには「7対3」の力量がなければいけないことは誰でもが知っていることであろう。

ここで問題を提起したいのは、なぜこうなったか、どうして若いプレイヤーが伸びないのか、ということである。

ソ連、ルーマニア、東ドイツなどの話によれば、彼らの国は、モントリオールが始まる前に、すでに次回のモスクワ対策がスタートされているという。

日本のハンドボール界は、ナショナルチームはどうであろう。今さら明記するまでもない。

一カ月先の計画も建てられていない現状で、「ベストエイトに進出するためには…」というテーマをどうして論じることができるだろうか、どうしてこういう言葉がでてくるのか不思議である。

冒頭に述べたとおり、ハンドボールは日本人に合ったスポーツである。

これまでハンドボールに青春を賭けられた諸先輩、そしてこれからを志ざす後輩諸君のために、「ジュニア・ナショナルチーム」の長期計画をお願いしたい。（FP、大同特殊鋼）

花輪　博

今回、ヨーロッパ勢を幾度か苦しめながら、最後には振切られてしまったことは、非常に口惜しいものである。今までの記録をみても、これだけの接戦した試合はなかったと思われる。

しかし、この少差というものがこれから先、非常に大きな壁となることは間違いないことである。その壁を乗越えて始めて八位以内に進出できるのであろう。

それでは、これから将来、どうしたら八位以内に進出できるのか私は四つの問題を提起したい。

そのひとつは、外国との交流が非常に少ないことである。

日本に外国チームが年に数回来るが、それだけでは経験が少な過ぎる。逆に日本から外国へ長期合宿を行ない、またその間、各地に転戦し、外人慣れをしなければならないと思う。日本で何回も合宿を重ねるより、外国で長期合宿兼転戦を行なった方が、よほどの効果があるに違いない。

つまり、外国で試合を行ない、外人と試合をすることが慣れたとき、その日程が終わり、日本に帰えってくる。

このような状況では到底、ヨーロッパの壁は破れまい。

世界のハンドボールは、目をみはるほどの早さで発展している。遠征ごとに、そのハンドボールが変わっているのに、びっくりするほどである。

いま、日本のハンドボールを強化するために、ディフェンスの強化だとか、オフェンスの強化だとか叫ばれているが、その対象が日本になく、現実には、その対象を仮想して合宿を重ねている状態である。

虎穴に入らずんば虎児を得ずの諺のとおり、外人に対するディフェンスの方法、あるいは、オフェンスの方法は実際に外人を相手にしながらでなければできない。

ディフェンス、オフェンスのパターンはたくさんある。しかし、そのパターンの選択は対戦するチームによって変わってくるのは当然であり、その臨機応変をも実戦で培われるものである。

第2に、指導体制の確立をめざさなければならない。

国際大会があるごとにチームを編成して大会に臨む。これでは、一貫した指導体制が仲々取りにくく長期ビジョンに立って、勝てるチーム作りはできないと思う。

一貫した組織、チームでなければ技術、精神面になどにも効果的ではなく、ひとつの目標に向って少なくとも、目標達成までひとつの組織で進むべきであり、その中で新旧交代を円滑に行ない、常に若々しいチームでなければならないと思う。

第三に、今日の情報化時代にもかかわらず、情報があまりにも少な過ぎる。現状に目を向けるべきである。

収集方法は、それなりにたくさんあると思うが、情報のある、なしでは日本のハンドボールにとって影響が大きい。

日本が外国に対し、今後、互していくためにも第一の問題と同時に、情報の収集、活用にある。そのために情報の確保、分析の方法を組織し、常に活用できるシステムを作りだしていく必要があると思う。

最後に審判の問題がある。

日本のハンドボールも世界に遅れなりとも発展していることは間違いない。

しかし、その進歩に伴なって審判の仕方が変わってきているだろうか。

誤審することは仕方のないことである。しかし、たびたび誤審されると試合の流れは変わってくるのは当然だし、また選手自身のやる気や、選手が審判に合わせたようなプレーの試合になりかねないこういう状況が出てくると審判によってハンドボールの発展阻害にもなりかねなく、プレーもおのずと小さくなってしまう。

これでは折角、よいプレーを身につけても、それを発揮できないことになる。

以上のように、これらの前提には、いろいろ述べたが、選手自身のやる気と選らばれた責任を全うすべく、常に精進、努力しなければならないのは云うまでもない。

こうした一体心で必ずベスト8入りは可能と思う。（FP、大同特殊鋼）

中井　武三

日本のハンドボール愛好者の期待と声援の中、モントリオールオリンピックに出場しベストめざ

世界へはばたけ日本のハンドボール

（協賛者御芳名・順不同）

◇岐阜県実業団ハンドボール連盟◇

会長	清水晴次	大垣市中曽根町	日本耐酸壜工業取締役
副会長	柳瀬準一	岐阜市西部中島	二和家具工業取締役
理事長	森島清明	大垣市中曽根町	日本耐酸壜工業
理事	隅田泰生	不破郡垂井町宮代	帝人製機岐阜工場
	新村茂	岐阜市西部中島	二和家具工業本店
	泉文俊	安八郡安八町大森	三洋電機岐阜工場
	安武英巳	大垣市久徳町 239	太平洋工業
	浅野敏夫	大垣市中曽根町	日本耐酸壜工業
	高橋省吾	大垣市神田町	揖斐川電工本社

◇愛知県実業団ハンドボール連盟加盟会社及び団体◇

アイシン精機株式会社
新日本製鉄株式会社　名古屋製鉄所
自衛隊春日井
大同製鋼株式会社
中部電力株式会社
トヨタ自動車工業株式会社
トヨタ車体株式会社
トヨタカローラ愛知株式会社
豊田自動織機株式会社
豊田工機株式会社
豊田合成株式会社
株式会社トーメン名古屋支社
日本碍子株式会社
パイロットインキ株式会社
伏原紡織株式会社
ブラザー工業株式会社
三菱自動車工業株式会社
名古屋自動車製作所

（アイウエオ順）

して戦って参りましたが、今回も空しく世界の壁は厚かった。しかしながら今回ほど勝敗を意識し戦ったことはなかった。試合の内容からみて、もう少しのところで勝てなかった日本チームを分析してみると、何度も言うように選手の国際試合経験の少なさが敗因であると思われる。オリンピックや世界選手権等の世界の舞台で好成績をあげるチームともう少しというところで勝てないチームとには歴然とした国際経験の差があるのである。選手が自分の体で外国人と接触し外国人の弱点を選手各自が考えていかなければ欧州の壁はいつまでたっても打破できないであろう。又、外国におけるオリンピックに対する考え方との違いが大きく響いているとも思われる。

選手として選ばれた名誉はどこも同じであるが、その後の事においては、共産国では名誉プラス地位の向上、他の一部の国においては金銭が動いているところさえある。それらが勝敗に対する選手の執念に大きく作用するのであろうこのような事を日本でもと言うのではない。そしてそれに加え、それらの国でのオリンピックに至るまでのプロセスが、すごいのである。数年前から計画が練られその間の国際試合では新人達にも出場の機会を与えたり、日本のように国際試合といえば常にベストメンバーで臨むのとは違い試験的なメンバー編成を試みたり、準備万端でオリンピックに参加するのである。

日本の場合、全日本のメンバーのほとんどが社会人であり、合宿といえど前年頃から本格的になり国際試合たるや数える程しかできず、これで世界の壁に挑戦しても勝てる要素は少ない。今日の競技においては根性論だけでは勝てないのである。あらゆるデータからくる科学的裏づけによる練習プラス根性が必要なのである。もちろん国際経験を積む為の海外遠征には多額の金が要る。しかし海外遠征国際試合経験なくして日本の向上はあり得ないと考える。

今回のオリンピックでこれほどまでに戦えたことは、昨年のプレオリンピック出場によるところ大である。

すなわち、プレオリンピックにおいて欧州勢に完敗しながらもある程度作戦をたてれば戦える事が判り、その全試合をビデオに収める事ができたこと、又、カナダ、アメリカには勝つことにより日本チーム強しの印象を深くして帰国できたからである。

結論的に日本がベスト8に進出する為には、①選手の国際経験を豊かにする、②審判の国際舞台進出、③ハンドボール協会内の国際部の充実、この三つであろう。（FP、大同特殊鋼）

▽モントリオール特集

国際経験の不足を痛感……荒川理事長

日本協会・荒川清美理事長は、このほどJOC（日本オリンピック委員会）によって刊行された「第21回オリンピック競技大会報告書」で、今大会の日本チームの総合評価とモスクワへの課題を、大要次のように記している。

これは、大会後、荒川理事長が公けに示した最初の見解であり注目される。



モントリオール・オリンピックは、ミュンヘン同様に、東欧勢の大型化された力強いプレーが印象に残った。男女とも上位は東欧勢が占め、なかでも、ハンドボール界で初めて男女優勝を果たしたソ連は圧倒的な強さを示し、ソ連時代の幕開けの感がする。

また、ミュンヘンで惨敗した西ドイツが選手の若返りと、ミュンヘン大会優勝国ユーゴのコーチを監督にすえ、ヨーロッパ予選で東ドイツを破り、本大会の予選ではユーゴに勝ち、順位決定戦で上り坂のポーランドに惜敗（延長）したものの、その選手強化策は、今後の日本チームに指針を与えるものである。

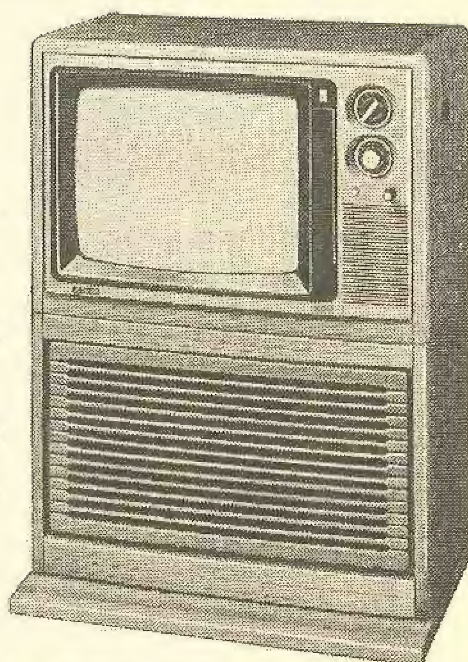
日本も、過去の世界選手権で大敗した男子のユーゴ、デンマーク西ドイツ、女子のルーマニアなどにあと一歩のところまで接近したが、体格、体力の差による攻防戦の経験不足が試合の流れを左右している。

国際交流の機会を多くもち、自分を知り相手を知ることが上位進出の道であることを痛感する。

モスクワ対策としては、国内的には1、強化対策部（仮称）の設置。2コーチングスタッフの確立（トレーナー、ドクターを含む）。3、長期計画の確立。4、長身選手の発掘と強化。5、国際情報の収集6、日本戦術の開発と高度化など

国際的には、1、海外遠征と合宿、2、世界上位国の復数の招待などで、以上、多角的に強化を企てねばなるまい。

VICTOR



いい色で いい音で

18型 C-5618(アンテナ・工事費別)
(本体)標準価格 135,000円

別売り：スピーカーバッフル CFT-562S 14,500円
別売り：テレビスタンド(ガラス戸付き) CFT-561 7,200円



ビクター純白カラー

●ビクターローン・システムをご利用ください。

雷災からゴルファーを守る大崎のFYケージ


東京ゴルフ倶楽部

いま、安全なゴルフ場作りが、社会的なニーズを呼んでいます。

もしプレー中に雷に会ったら、せっかくのナイスショットも、命がけで逃げなければなりません。そんな時、安全な待避小屋が備えてあれば、あなたのゴルフ場は完璧です。

落雷は、時、場所、人を選びません。安全な待避小屋→大崎のＦＹケージを適所に設置して中に入れば、雷災から完全に保護されます。



大崎電氣工業株式會社
本社 東京都品川区東五反田二丁目二番七号
☎ (03) 443－7171 (大代表) 〒141

FYケージ

防雷シエルター
工業所有権出願中
特許３件
実用新案４件
意匠５件
商標１件

中央の連覇か、大阪体大か

名古屋で全日本学生選手権

モスクワオリンピック目指す若い力の抬頭が期待される第19回（女子第12回）全日本学生選手権は、11月24日から28日までの5日間、名古屋市体育館・愛知県体育館に男子32女子13校が参加して開かれる。
名古屋での開催は初めて。優勝の行方をさぐってみた。

多彩になった中央攻撃陣

（男子）前年宿願の初優勝を遂げた中央（関東）が、今年も安定した力でトップに立ちそうだ。

学生界からただ一人オリンピック代表に選ばれた蒲生が、強肩一本やりから、こまかい技を身につけ、特に配球力が増して、攻撃をいっそう多彩なものにしている。関、西窪、金沢、長野らの鋭い突進とシュート力にもみがきがかかり関東学生では春秋通算1試合平均30・4点というハイスコアをマークしている。

また、これまでの中央は、攻撃に比べ守備が甘いといわれたが、今年はGK小松の手固さも手伝ってまとまっている。

3回戦に予想される早稲田（関東）戦が大きなヤマだが、ここを乗り切れば、連覇濃厚となる。

中央は昨春5月の関東学生以来1引き分けをはさみ、対学生公式戦34連勝を記録している。

大体大にけわしい道のり

中央にストップをかけるのは、関東勢では早稲田以外ちょっと期待薄となれば、前年2位で雪じょくの意気に燃える大阪体大（関西）が、注目の存在。

長身・能波を軸に西上、丸井、佐々木、北川、崎野、GK松岡らの攻守は、関東の関係者でも、中央にヒケをとらぬとみる人もあり二年つづけての両雄対決となれば前年（中央15—14）をしのぐ、スケールの大きい決勝となろう。

ただ、慶応（関東）戦を皮切りにあまりにも決勝までの道のりがけわしい。慶応、中京（東海）、近大京都産大（ともに関西）、日大、日体、東京教大（いずれも関東）らは、いずれも上位進出をはたすに充分な力をもっており、特に、関西でのライバル京都産大が日大を制して勝ち上ってくるようだと、波乱含みとなる。

注目される早稲田、名城

中央がもっとも警戒している早稲田。たしかに春が27—13、秋が27—22と一方的だが、泉を要に鈴木、洞ケ瀬、武井、北里、GK安田らの動きは、それほど差があるとは思えない。問題は、中央の波状攻撃をどこまで守り切るかだろう。

明治、法政（ともに関東）、名城（東海）のかみあうパートからは、どこが進出しても、中央または早稲田の総合力には一歩をゆずる。

この3校のなかでは、GK岡部に頼る明治や、バランスをすっかり崩してしまった法政よりも、東西対抗（9月）で活躍した高橋、鈴木康、谷元らの名城に注目したい。

大阪体大側のダークホース群も互いに星をつぶしあう組み合わせだが、ことに日体×東京教大、日大×京都産大は好内容となろう。

スランプの日体は、秋季後半、思い切った新人起用でかなり復調「インカレは一本勝負、波に乗りさえすれば……」（一宮コーチ）というところまで来た。

東京教大は、春秋ともに日体を破っており、8年ぶりでベストフォア進出の好機を迎えている。

京都産大は、大阪体大のために5シーズン連続関西学生2位に甘んじており、この桧舞台で、なんとか雪じょくをと狙う。

しかし、日大も今秋は絶好調、1部で初の勝ちこしを決めたばかりか2位進出を果たしているだけに、両者の対戦は1回戦屈指の好カードといえる。

前年大奮戦した九州産大（九州）は、主力卒業の穴が埋まり切らず今年は苦しそう。地方校では金沢大、金沢工大の北信越勢の進境が伝えられ、このほか東北学院（東北）、中四国ナンバーワンに躍進した愛媛大、初参加の室蘭工大（北海道）らの健闘が期待される。

なお、全日本総合（12月、東京）への枠が5校あるため、5年ぶりで5位決定戦が行われる予定。

東女、日体が今年も焦点

意欲示す武庫川女

（女子）東女体大、日体の関東勢による決勝というのが順当なみかただが、これまでのように両校の実力が抜群というわけではなさそうで、波乱が起きる可能性も充分ある。

特に、2連覇を目指す東女体大の前には東京教大（関東）、武庫川女（関西）が立ちはだかり予断を許さない。

東女体大はGK鍋田、三沢を攻守の要に持ち、パスプレーが巧い武庫川女は、関西学生春秋、西日本学生優勝と好調、それだけ自信も深めている。

一方のブロックは、日体×大阪体大（関西）の準決勝か。

過去9回の優勝の日体は、速攻を武器として得点力では学生界一とみていい。

大阪体大はどう自分のペースに誘いこめるかがポイントだ。

ダークホースは東京教大と山田を持つ東京学芸大。地元の中京、中京女はやや不安定。

女子学生界には、いつものことながら、この大会で、はずみをつけ全日本総合で、ぜひとも実業団に肉薄するよう望みたい。（杉）

◇……男　子……◇

- 中　　央
- 福岡教大
- 名古屋大
- 金沢工大
- 順 天 堂
- 大 阪 大
- 早 稲 田
- 京都教大
- 鹿児島大
- 東北学院
- 愛知教大
- 広 島 大
- 名　　城
- 明　　治
- 大阪経大
- 法　　政
- 日　　体
- 九州産大
- 同 志 社
- 東京教大
- 金 沢 大
- 近 畿 大
- 岐 阜 大
- 芝浦工大
- 愛 媛 大
- 東 北 大
- 日　　大
- 京都産大
- 中　　京
- 室蘭工大
- 慶　　応
- 大阪体大

◇……女　子……◇

- 東女体大
- 中　　京
- 東京教大
- 岐 阜 大
- 福岡教大
- 日女体大
- 武庫川女
- 東京学芸
- 中 京 女
- 大阪体大
- 愛知教大
- 大阪成蹊
- 日　　体

中央、2年連続の"春秋制覇"

関東学生秋季

秋の関東学生リーグ戦（1〜5部、各8校、6部9校）は9月23日駒沢屋内球技場で開幕、1、2部は10月24日全日程を終え、中央が圧倒的な強さ、巧みさをみせて全勝、4シーズン連続8度目の優勝を飾った。2部は東海が初。得点王は1部が蒲生晴明（中央4年）58点、2部が舛屋博司（芝浦工大4年）62点だった。
　屋外コートの3部以下は雨天でスケジュールがずれ、終幕が遅れている。

　1部の前半戦は大混戦だった。日大の頑張りと日体、法政の低迷が原因だが、ことに春季3位で今季もダークホース視されていた法政がまったく鋭さを欠いて各校に勝ち点を提供。日体も歯切れの悪いプレーでどうにか2勝をマークしただけ。順調な歩みをみせた早稲田も慶応に気力負けするなど各校とも不安定。中央一校が堂々たる試合ぶりで勝ちつづけた。
　日大の健闘はリーグを大いに盛りあげた。創部以来の悲願である学内体育会加盟の希望がでてきたことも手伝ってシャープなプレーをみせ、日体から初勝利をあげたほか、眠っていた実力を一気に発揮した感じだった。

　終盤に入って優勝争いは中央、早稲田両校に絞られたが、最終日の対決を前に、中—早の得失点差は51点もの大差がついており、事実上、第6日に中央優勝が決定。蒲生がオリンピック代表らしい余裕と、抜群のシュート力をみせ、最後のリーグ戦を得点王で飾る活躍だった。このほか関、西窪、新進・長野、GK小松らが持ち味をいかんなく発揮、4シーズン連続負けしらずという実力をみせつけた。
　早稲田は慶応戦を落としていなければ、中央戦の試合ぶりも違ったものになっていただろう。
　日大は後半3戦を全勝で乗り切って2位（注・早と同率）、もちろん36年秋加盟以来初の記録だ。チームワークのとれた攻守は賞讃に価する。個々では新鋭GK大畑が光った。1部昇格直後2位に入った例は、29年春の芝浦工大以来。
　東京教大はバランスのとれた攻守で42年秋以後久々のAクラス入りを遂げた。
　日体は、いちおうは入れ替え戦出場の危惧さえあったが、辛くもまぬがれた。負けこしは41年秋以来。慶応もせっかく早稲田を降しながら不安定を暴露、尻つぼみ。明治はGK岡部ら9人で頑張り抜いた
法政は守備に粘りがなく、1部8校制になって以来、初の無勝最下位という不振で終ってしまった。
　なお、早×日戦（第2日）で、ラフプレーから日大側に「失格」を宣せられる選手が出た。関東学生リーグ（1部）史上、初めての記録といわれる。
　2部は、順天堂、東海がバランスのとれたチーム力で激戦を脱け出し、東海が初優勝を飾った。
　芝浦工大は切り札・舛屋（春季1部得点王）の孤軍奮闘で、辛くも1勝したものの最下位、3部上位校の実力が高いことから、2部残留が微妙になっている。
　3部以下は各校5〜4戦を終ったところで、3部は関東学院、防衛、4部は東京工大、5部は大東文化、6部は神奈川大、横浜国大がリードしている。

日大、日体から初勝利

▽1部

法政 17（8—8、9—9）17 東京教大（引き分け）

得	【法政】		【教大】	得
0	植原	GK	上原	0
0	浦田		須波	0
4	橋本	FP	中村	4
0	江司		川原	0
0	小山		佐藤	0
5	中野		浜田	3
2	角木		西川	1
3	水本		小西	3
0	中村		若田	0
1	田尻		滝口	1
0	吉田		白井	5
2	有田		佐々木	0
17	(1)	PT	(1)	17

日体 20（11—8、9—7）15 慶応
早稲田 27（16—5、11—8）13 明治
中央 31（19—9、12—5）14 日大
中央 31（14—9、17—5）14 明治
東京教大 17（8—6、9—6）12 日体
慶応 20（10—5、10—3）8 法政
早稲田 23（11—9、12—6）15 日大
日大 30（16—6、14—9）15 日体

得	【日大】		【日体】	得
0	大畑	GK	釜谷	0
0	高林		吉村	0
6	大塚	FP	後川	4
8	新井田		大西	0
2	桜井		池之上	5
0	山本		越前	1
7	今井	（審・高野、小松原）	三谷	0
0	前島		越石	0
4	山口剛		工藤	0
0	堂尻		辻本	0
3	山口哲		泉	2
0	水島		松井	3
30	(3)	PT	(2)	15

中央 34（16—13、18—10）23 慶応
明治 14（8—7、6—4）11 法政
早稲田 19（8—8、5—5）13 東京教大
日体 23（11—10、12—8）18 明治
日大 22（12—6、10—6）12 法政
中央 29（14—9、15—12）21 東京教大
日大 23（8—11、15—5）16 東京教大
慶応 19（8—8、11—9）17 早稲田

得	【慶応】		【早大】	得
0	加藤	GK	阪本	0
			安田	0
3	西村	FP	鈴木	6
1	浅野		泉	2
5	勝地		洞ケ瀬	6
0	常川		武井	1
4	草皆		北里	0
1	保坂		石川	2
5	野木		吉見	0
0	山本		中村	0
0	上西		時田	0
0	大村		筏	0
19	(1)	PT	(4)	17

中央 33（14—11、19—7）18 法政
慶応 13（5—4、8—9）13 明治（引き分け）
早稲田 25（12—11、13—5）16 日体
日大 19（12—10、7—6）16 慶応
東京教大 26（13—9、13—3）12 明治
早稲田 23（9—10、4—9）19 法政
中央 39（10—7、18—10）17 日体

得	【中央】		【日体】	得
0	小松	GK	釜谷	0
0	板橋		長野	0
13	蒲生	FP	後川	3
5	関		半田	4
3	金沢		大西	1
0	大林		三谷	4
6	西窪		越石	2
7	坪子		越前	3
0	中村		泉	0
5	長野		本田	0
0	大久保		松井	0
0	由利		長野	0
39	(4)	PT	(2)	17

日大 30（14—6、16—9）15 明治
東京教大 25（11—9、14—8）17 慶応
日体 30（14—6、16—9）15 法政
中央 27（13—12、14—10）22 早稲田

	明治	得	得	日大
GK	岡部	0	0	高林
GK			0	大畑
FP	松本勇	4	4	大塚
FP	加納	3	6	新井田
FP	江幡	3	6	桜井
FP	辻	3	0	山本
FP	鈴木	0	7	今井
FP	松本茂	0	0	前島
FP	小倉	2	3	山口剛
FP			3	山口哲
FP			0	堂尻
FP			1	水島

30（1）PT（2）15

	早大	得	得	中央
GK	坂本	0	0	小松
GK	安田	0	0	板橋
FP	鈴木	6	6	蒲生
FP	泉	4	5	坪子
FP	洞ケ瀬	7	4	西窪
FP	武井	2	3	関
FP	北里	1	0	大林
FP	石川	2	6	長野
FP	吉見	0	0	佐藤
FP	横山	0	0	大久保
FP	武藤	0	3	金沢
FP	筏	0	0	中村

27（3）PT（3）22

【順位】①中央7戦全勝②早稲田・日大5勝2敗④東京教大3勝1分3敗⑤日体3勝4敗⑥慶応2勝1分4敗⑦明治1勝1分5敗⑧法政1分7敗（本誌注・関東学連は得失点差により②早稲田③日大と発表している。）

東海、順天堂に敗るも優勝

▽2部

東海 22（15－7、7－8）15 芝浦工大
順天堂 21（11－10、10－8）19 専修
東京学芸大 27（15－8、12－11）19 明星
明星 21（10－7、11－11）18 国士館
専修 22（13－10、9－10）20 芝浦工大
国士館 35（16－7、19－5）12 専修

順天堂 19（7－8、12－10）18 東海

	順天	得	得	東海
GK	橋本	0	0	秋田
GK	井登	0	0	吉元
FP	松本	3	1	清水
FP	八重盛	8	1	篠崎
FP	泉	1	2	深堀
FP	小越	2	3	吉野
FP	田村	3	0	川村
FP	前島	0	2	宮沢
FP	工藤	1	0	石毛
FP	宮崎	0	0	沢口
FP	北守	0	0	小村
FP	岩尾	1	9	大東

19（0）PT（4）18

明星 26（14－11、12－8）19 芝浦工大
東海 25（13－8、12－7）15 青山学院
青山学院 33（19－8、14－9）17 芝浦工大
順天堂 36（21－9、15－6）15 明星
東海 20（9－6、11－8）14 東京学芸大
順天堂 28（17－5、11－3）8 青山学院
東海 25（14－12、11－9）21 国士館
東海 29（16－9、13－8）17 明星
順天堂 19（7－8、12－10）17 国士館
東京学芸大 16（8－4、8－12）16 青山学院 引き分け
国士館 21（10－12、11－5）17 青山学院
明星 15（7－7、8－8）15 専修 引き分け
東京学芸大 31（18－12、13－8）20 芝浦工大
青山学院 14（5－6、9－8）14 専修 引き分け
国士館 36（16－8、20－4）12 芝浦工大
東京学芸大 22（15－7、7－6）13 順天堂
東京学芸大 29（18－2、11－5）7 専修
国士館 24（12－10、12－9）19 東京学芸大
東海 26（15－9、11－3）12 専修
青山学院 27（14－13、13－12）25 明星
芝浦工大 24（11－11、13－12）23 順天堂

【順位】①東海6勝1敗②順天堂5勝2敗③東京学芸大4勝1分2敗④国士館4勝3敗⑤青山学院2勝2分3敗⑥明星2勝1分4敗⑦専修1勝2分4敗⑧芝浦工大1勝6敗

男女ベストセブン　関東学連はリーグ戦終了後、今秋の男女ベストセブン（1部）を次のように選こう、閉会式で表彰した。

男子の蒲生（中央）と女子のGK鍋田（東女体大）は6度目の受賞である。

☆男子・GK小松伊佐夫（中央、③）・FP蒲生晴明（中央、⑥）、関健三（中央、②）、西窪勝広（中央③）、坪子義明（中央、初）、長野透（中央、初）、泉喜久男（早稲田、②）、新井田司（日大、初）

☆女子・GK鍋田美佐子（東女体大、⑥）・FP岩本徳子（日体、③）、水口栄子（日体、②）、中村美穂子（日体、初）、三沢一枝（東女体大、③）、中島葉子（東京教大初）、山田美代子（東京学芸大、④）

実りの秋、大型新人デビュー

□……ポスト・モントリオール。有望新人発掘の場は、やはり学生界――秋のリーグのスタンドはそうしたムードを反映して、日本協会関係者やナショナルプレイヤーの姿がいつになく目立ったが、福地賢介関東学連理事長も「2～3年先を期待できる大型プレイヤーがかなりいる」と明るい顔。

コートサイドで特にいい点がつけられていた1年生は、由利（中央、湯沢高、左腕）、泉（日体、岩国工）、松井（日体、日体荏原）らだ。

□……なかでも鳴りもの入りでデビューした泉は注目の的。

蒲生（中央）以来のホープだ、いやこれだけの大器は木野（立教―湧永薬品）にさかのぼると、騒がしかったが、190㎝、86Kという恵まれた体軀を誇り、パワーだけではなく、敏捷性、巧ち性も持ち合わせているのが魅力。

右肩脱臼で春を棒に振っており今季も、その傷をかばって高校時代のような高打点シュートは充分といえなかったが、北川勇喜日体監督は「世界的なプレイヤーになれる素質がある。大事に育てたい」と大変なほれこみよう。

当人も「どんなに激しく当たられてもシュートの射てるような選手になりたい。目標は、高校―大学の先輩である藤中さん（大同特殊鋼）……」とたのもしい。

関西は大体大10連勝

関西学生秋季リーグ戦は、10月24日大阪体大体育館で最終日を迎え、男子1部（7校）の優勝をかけた大阪体大×京都産大戦は、大阪体大が22―16で快勝、6戦全勝を飾り10シーズン連続優勝、関学がもつ12連勝（昭23春～28秋）のリーグ記録にまた一歩せまった。

2位以下は、京都産大、近畿大、大阪経大、同志社、京都教大、大阪大の順。

新たに3校を加え10校の活況となった女子は、5校づつ2組のリーグ戦のあと、各組同位者で順位決定を行うシステムが採られた。

武庫川女（A組1位）と大阪体大（B組1位）の決勝戦は、予想どおりの大接戦となったが、6―5で武庫川女が勝ち、3シーズン連続5度目の優勝を飾った。

2位以下の順位は大阪体大、大阪成蹊女子短大、京都教大、大阪教大、滋賀大（新）、大阪薬科大、関大、京都教大（新）、和歌山大（新）

（詳報次号）

世界へはばたけ日本のハンドボール

（協賛者御芳名・順不同）

新潟ハンドボール協会長
近　藤　薬　局
柏崎市東本町２丁目
ＴＥＬ02572—2—2604

スポーツ用品　体育器具全般
あけぼのスポーツ用品店
名古屋市昭和区北山本町１—９
（曙町１交叉点南）
ＴＥＬ(052)731—5267　733—2344

大きな夢　豊かな暮らし
生活に密着したアルミ容器の総合メーカー
武内プレス工業株式会社
代表取締役　武内宗八
本社工場　富山市上赤江町７丁目10番１号
ＴＥＬ0764（41）1856（代）
大阪工場　神戸工場・東京営業所・名古屋営業所

愛知県ハンドボール協会推薦
ゴールドキング印トレーニングパンツシャツ製造発売元
有限会社　小　林　産　業
名古屋市西区平出町 367 番地
〒452　ＴＥＬ(052)501—7028

オニツカタイガー用品・スポーツ服装・専門店
株式会社　イナガキスポーツ
名古屋市東区水筒先町４—４
ＴＥＬ　052—935 {5075 / 8110}

一般運動用品　　体育施設
株式会社　北野屋スポーツ
柏崎市東本町１丁目　ＴＥＬ02572（３）2345，5013

板　垣　工　作　所
和歌山市広瀬中ノ丁２の21
ＴＥＬ0734—23—5394

トヨタと共に躍進するセントラル
クラウン，コロナ，ライトバン，救急車
セントラル自動車株式会社
ハンドボール部
〒229　神奈川県相模原市大山町４番12号
電話・相模原局（0427）72—6111（大代表）

福井県ハンドボール協会
会長　伊　藤　仁　和

日産石油化学株式会社
〒290　市原市五井南海岸11番地
ＴＥＬ（0436）21—6111（大代表）

暮しの必需品をお安く奉仕!!
これがマスダのテーマです
ショッピングデパート
マ　ス　ダ
社長　増田　一（茨城県ハンドボール協会顧問）
茨城県水海道市宝町２７７１

筑波山頂の豪華なリゾート・ホテル
国際観光旅館連盟会員・日本交通公社協定
政府登録　山　水　荘　ホ　テ　ル
茨城県筑波郡筑波町１０５１
電話(02986)6—0721（代表）
東京案内所（03）231—2642

皆さんお元気ですか。茨城国体で福岡チームをお世話した石黒です
政府指定米穀
集荷業者　石　黒　商　店
代表取締役　石　黒　信　義
茨城県水海道市渕頭町２９１４
電　話（02972）３—1511（代）

長野県ハンドボール協会長
戸　塚　一
長野県佐久市岩村田
ＴＥＬ02676—7—2400

株式会社
木　下　組
常務取締役社長
県ハンドボール協会副会長　木下　秀夫
本社・長野県佐久市中込146—1

思い出の富山チームの皆さん。また合宿にでもお出かけ下さい。
フルヤコンクリート工業
取締役会長
市商工会長　古　谷　国　三　郎
茨城県水海道市中妻町
電話（02972）２—0077

なつかしい富山チームの皆さん，今年も頑張って下さい
石　塚　建　材
代表取締役　石　塚　信　一
茨城県水海道市中妻町９３２
電　話（02972）２—１７１８

包　装　資　材　卸
株式会社　サ　ガ　ネ　商　店
代表取締役社長　嵯峨根　宏　行
京都市上京区丸太町千本東
ＴＥＬ（075）811—5161

京都府ハンドボール協会
会長　木　下　彌　三　郎

京都府ハンドボール協会
副会長　立　石　孝　雄

日体、3季ぶりの栄冠

関東女子学生秋季リーグ戦は9月23日から10月24日までの10日間、1部は駒沢屋内球技場で5校が2回戦制で優勝を争い、予想どおり東女体大—日体が対決、日体が東女体大の3連勝を阻んで、3シーズンぶり32度目の栄冠を飾った。

5校の参加している2部は雨天などから現在までに日程が完了していない。

上位食いこみが期待された東京学芸大、東京教大の両校は、〝2強〟に対し、それぞれ善戦したものの勝利を得るまでにはいたらず結局、今シーズンも最終週の日体—東女体大戦が〝決勝〟となった。

第1戦は、後半になって日体が調子を出し15分10—7としたが、東女は残り5分から猛反撃、24分川波で同点のあと、タイムアップ寸前のPTを山口が決めて劇的な逆転勝ち。

第2戦は、勝負のかかった後半日体は藤井の活躍で10分9—4、押し切るかとみえた。東女はそのあと4点を奪い一プレー毎に場内のわく好試合となったが、日体は岩本の好シュートで主導権をはなさず得失点差による優勝を決めた。

個人最高得点は山田（東京学芸大）が41ゴールをあげ、2シーズン連続5度目の受賞。

▽1部

東女体大 16（7—1 9—5）6 東京学芸大

日体 13（9—4 4—3）7 東京教大

日体 13（9—5 4—1）6 東京教大

②

	【教大】	得
GK	坂梨	0
GK	松永	0
FP	吉本	0
FP	土屋	0
FP	中島	0
FP	三井	0
FP	坂本	4
FP	清水	0
FP	野村	0
FP	菊地	0
FP	森戸	3
FP	安島	0

	【日体】	得
GK	大森	0
GK	堀山	0
FP	岩本	3
FP	門田	0
FP	中村	1
FP	水口	1
FP	宮崎	1
FP	寺尾	0
FP	藤井	7
FP	森	0
FP	坂村	0
FP	矢野	0

13（1）PT（0）7

東女体大 11（6—5 5—5）10 東京学芸大

①

	【学芸】	得
GK	芳賀	0
FP	山田	5
FP	斉藤順	1
FP	寺井	1
FP	松田	2
FP	白井	1
FP	渡辺	0
FP	斉藤典	0
FP	高橋	0

	【東女】	得
GK	鍋田	0
FP	三沢	4
FP	甲斐	1
FP	大隈	2
FP	西峰	1
FP	山口	0
FP	磯山	1
FP	川波	2
FP	江波戸	0
FP	蛯谷	0
FP	福富	0

11（1）PT（1）10

東女体大 23（11—5 12—6）11 日女体大

日体 13（7—5 6—4）9 東京学芸大

東女体大 17（8—0 9—2）2 日女体大

日体 10（4—0 6—2）2 東京学芸大

東女体大 16（9—6 7—5）11 東京教大

東京学芸大 14（8—2 6—5）7 日女体大

東女体大 11（4—4 7—5）9 東京教大

東京学芸大 13（6—5 7—3）8 日女体大

日体 15（11—4 4—4）8 日女体大

東京教大 19（9—3 10—5）8 東京学芸大

日体 24（13—1 11—1）2 日女体大

東京学芸大 9（5—4 4—2）6 東京教大

東京教大 12（6—0 6—3）3 日女体大

①

	【日女】	得
GK	山岸	0
GK	熊谷	0
FP	塚田	1
FP	近藤	0
FP	玉那覇	0
FP	高野	0
FP	奥富	2
FP	松川	0
FP	三沢	0
FP	村沢	0
FP	梅本	0
FP	佐々木	0

	【教大】	得
GK	坂梨	0
GK	松永	0
FP	坂本	2
FP	吉本	0
FP	土屋	3
FP	森戸	2
FP	中島	2
FP	三井	0
FP	清水	1
FP	西山	0
FP	菊地	2
FP	南出	0

12（0）PT（0）3

東女、第1戦の勝利空し

東女体大 12（5—5 7—6）11 日体

①

	【東女】	得
GK	鍋田	0
FP	三沢	1
FP	磯山	1
FP	甲斐	1
FP	川波	1
FP	大隈	0
FP	西峰	1
FP	山口	7
FP	江波戸	0
FP	福富	0
FP	蛯谷	0

	【日体】	得
GK	大森	0
GK	堀田	0
FP	岩本	2
FP	藤井	1
FP	門田	1
FP	中村	2
FP	水口	2
FP	宮崎	3
FP	寺尾	0
FP	森	0
FP	坂村	0
FP	矢野	0

11（1）PT（3）12

東京教大 13（8—2 5—2）4 日女体大

日体 12（8—7 4—2）9 東女体大

②

	【日体】	得
GK	大森	0
GK	堀田	0
FP	門田	2
FP	岩本	3
FP	中村	1
FP	水口	1
FP	藤井	3
FP	宮崎	1
FP	寺尾	1
FP	森	0
FP	矢野	0
FP	坂村	0

	【東女】	得
GK	鍋田	0
FP	三沢	0
FP	甲斐	1
FP	大隈	0
FP	西峰	1
FP	川波	0
FP	磯山	4
FP	山口	3
FP	福富	0
FP	江波戸	0
FP	蛯谷	0

9（4）PT（2）12

【順位】①日体7勝1敗（得失点差56）②東女体大7勝1敗（43）③東京教大・東京学芸大3勝5敗⑤日女体大8敗

（注）女子のベストセブンは33頁に掲載。

1・2部入替えず 関東学生女子2部リーグは、前季同よう都留文化、千葉、青山学院、茨城、学習院女子短大の5大学によって駒沢球技場などで行われているが、関東学連は、今季も女子は1～2部の入れ替え戦を行わないことに決めた。

これは、2部各校と1部校の実力差が、かけはなれすぎているためで、2部の試合は、審判員が試合途中、ルール説明を行う場面もあるほどで、しばらくの間〝親善試合〟的な運営が望ましいと判断したものである。

5度目の〝得点王〟 山田美代子選手（東京学大）

□……東京学芸大の山田美代子主将（4年、栃木女高出）が、5度目の個人最高得点賞に輝やいた。デビューした1年生の秋に初受賞最大限8シーズンだから、この快記録、二度とマークされないのではなかろうか。

1m55、49Kと小柄だが、右45度から豪快に射ちまくる。ディフェンスを引きつけておいてのシュートの巧さは、全日本女子のコーチでもある藤原侑・日体大監督も「絶妙」とほめた。そのうえ、パスカットからの独走はスピード豊かだし配球力も文句なし。即戦力に悩む実業団など当然誘いの手を伸ばしてよいと思うが、大型化に目がいきすぎるのか、この〝小さなエース〟を素通りしている。

もっとも、教員志望の当人は『これ以上ハンドボールをつづける気はありません。充分楽しませていただきましたし……』とサッパりしたもの。

クラブ（OG）での活動もまったく興味がないとかで、今後は『硬式テニスに取り組みたい』。

惜しむ気持ちで話を聞いていたが、くったくのないその表情をみているうちに、こちらも爽やかになった。

各地の記録

男子は前原が初優勝

▼第13回沖縄高校選手権（9月・南部商）

▽男子準々決勝

糸満 13（分）13 普天間

PTコンテストで糸満の勝ち

前原 21－10 浦添

興南 22－10 宮古工

沖縄 18－11 真和志

▽同準決勝

沖縄 13－9 糸満

前原 26－14 興南

▽同決勝

前原 21（7－4、14－5）9 沖縄

▽女子準々決勝

那覇商 9－4 豊見城

知念 13－5 糸満

コザ 棄権 宜野座

興南 6－4 浦添

▽同準決勝

興南 11－8 コザ

知念 9－7 那覇商

▽同決勝

興南 13（5－2、8－1）3 知念

稲球会と全学芸勝つ

▼第6回東京都クラブリーグ各部順位（5〜9月）

▽男子1部①稲球会7戦全勝（＝初優勝）②神代ク・府中ク5勝2敗④S・K・C4勝3敗⑤井草ク・大崎愛好会3勝4敗⑦早苗ク1勝6敗⑧仕友ク7敗

▽同2部①住原ク5勝1分1敗②早稲田同好会5勝2敗③若木会3勝3分1敗④日古ク・明友会⑥Y・M・C（明治大学同好会）⑦セブンスター⑧日吉OB

▽同3部A組①柏ク②大島会③神楽坂会④東杏会⑤育英ク⑥日体桜花ク⑦深沢ク⑧開成OB

▽同B組①サン・ク②L・B・C③押上ク・日産ク⑤教駒ク⑥日大商学部ク⑦橘会⑧丸紅ク

▽同C組①江東ミカワク②日本航空同好会③スミツツ④三井ク・桐生ク⑥若木会B⑦立教大HB集団⑧ピューマーズ

▽女子（2回戦制）

全学芸 11－9 小平OG

桐朋OG 不戦勝 小平OG

全学芸 13－5 桐朋OG

全学芸 不戦勝 小平OG

桐朋OG 不戦勝 小平OG

全学芸 14－3 桐朋OG

【順位】①全学芸（＝3連勝）②桐朋OG③小平OG

宮城教大（女）デビュー！

▼第13回仙台市民総体ハンドボール競技（10月・仙台商）

▽成年女子決勝

宮城教大 11（6－2、5－8）10 二華会

▽少年男子準決勝

仙台高 22－15 仙台商高

仙台育英高 29－8 仙台一高

▽同決勝

仙台育英 17（8－5、9－6）11 仙台高

▽同女子準決勝

仙台女商高 9－1 宮城一女高

宮城二女高 6－2 宮城三女高

▽同決勝

仙台女商高 7（3－1、1－3、0－0、3－0）4 宮城二女高

田村紡OG貫録示す

▼第27回三重県総合選手権（10月・津高）

▽男子準々決勝

三重教員 30－12 四日市工高B

尾鷲高B 19－11 亀山高

鵜ノ森クB 棄権 鳥羽商船

本田爽風会 27－19 オールド教員ク

▽同準決勝

三重教員 26－20 尾鷲高B

本田爽風会 19－11 鵜ノ森クB

▽同決勝

三重教員 31（12－8、19－8）16 本田爽風会

▽女子準々決勝

四日市商高 10－4 桑名高

津女高 12－1 尾鷲高

津女ク 14－5 四日市高OB

田村紡OB 12－6 四日市商高B

▽同準決勝

津女高 6－4 四日市商高

田村紡OG 8－7 津女ク

▽同決勝

田村紡OG 15（10－5、5－5）10 津女高

女子は京都クが順当勝ち

▼第19回京都府選手権（10月・明徳商高）

▽男子準々決勝

京都教員ク 24－14 嵯峨野高

伏見ク 21－18 下鴨コムトンズ

嵯峨野ク 18－11 広喜工務店

塔南ク 棄権 ワコール

▽同準決勝

伏見ク 21－14 京都教員ク

塔南ク 17－13 嵯峨野ク

▽同決勝

伏見ク 16（7－5、9－8）13 塔南ク

▽女子準決勝

京都ク 12－0 嵯峨野ク

乙訓高 24－5 洛北OG

▽同決勝

京都ク 14（3－2、11－2）4 乙訓高

▼第3回青森県下男子社会人秋季選手権（10月・七戸町立体育館）

▽決勝リーグ

海自第二空群 20－10 弘前大

青森ク 30－10 青森教員ク

七戸ユニオン 16－12 海自第二空群

弘前大 25－12 青森教員ク

青森ク 14－11 海自第二空群

七戸ユニオン 33－13 青森教員ク

青森ク 18－14 弘前大

七戸ユニオン 20－10 弘前大

海自第二空群 12－11 青森教員ク

青森ク 19－14 七戸ユニオン

【順位】①青森ク②七戸ユニオン③海上自衛隊第二航空群④弘前大⑤青森教員ク

★編集後記★

□……今春1月かぎりで部活動を休止した田村紡（三重）のOGたちが、チーム史「心の絆」（A5判・40頁）を刊行した。

育ての親の一人・宇津野年一氏は「選手だけのクロニクルにしたら…」と思ったそうだが、期せずして歴代部員の思い出ばなしがすべてを占めた。この種の刊行にあり勝ちな〝祝辞〟や自画自讃の原稿がまったくないのは、いっそう内容を感動的なものにしている。

□……この史誌を読んで、田村紡躍進の陰に加藤文江さんというすばらしい支えがあったことを初めて知った。

部員の食事をまかない、寮における私生活で母親代りをつとめられたかただ。

女子チームの〝難しさ〟についてはよく聞く。

名監督、名コーチ、名選手、専用コートだけではけして強くならないことを「心の絆」は改めて教えてくれた。

□……物価の高とうで本誌を取り巻く状況はいっそう〝悪化〟。読者の負担増をつづけてまで今後も刊行するかどうか、11月の全国代議員会で協議をお願いしてある。

なんとも淋しいことだが仕方がない。（S・S）

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一四七号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和五一年十月二十五日印刷 昭和五一年十一月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東[illegible]谷区神南一―一―一
電話 大代表(467)三二一一
振替 東京五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
定価二百八十円（年間購読料二千七百円）